



# 社会福祉法人 ひとつの会

## 令和4年度 事業報告

### ひとつの会 事業推進本部

#### 【事業基本方針】

1. 法人基本理念： 人の為に走れ

2. 法人運営目標

#### 【利用者・家族の為に】

支援を必要とするすべての人の期待や要望を的確に把握し、自立した笑いの絶えない生活の実現を目指す。

#### 【職員の為に】

職員は、すべての面において働き甲斐のある職場環境の構築と、職員や家族が心から利用したい法人になることを目指す。

#### 【地域の為に】

地域の福祉拠点として情報を発信し、ふれあいを大切にしながら、地域への参加受け入れを行い地域福祉の発展に貢献する。

3. 法人運営方針

#### 【利用者・家族の為に】

- ・ 質の高いサービス提供により、安全・安心のサービスを追求する。
- ・ 個人の自主性を尊重し、家族の意見も取り入れた利用者本位のサービスを推進する。
- ・ 相互理解と説明同意により、納得のサービスを推進する。

#### 【職員の為に】

- ・ チームワーク重視と資質向上への支援をし、安心して仕事のできる職場にする。
- ・ 健全な運営と公平な評価により、働き甲斐のある職場にする。

【地域の為に】

- ・親切、丁寧、即対応により、信頼サービスを追求する。
- ・関係機関と連携を密にして地域福祉の推進と向上に努める。

【具体的事業報告】

4. 理事会・評議員会の開催

【理事会】 3回

- ・令和4年5月31日開催

議案第一号 令和3年度 事業報告(案)の承認について

議案第二号 令和3年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算(案)の承認について

議案第三号 評議員会の招集について

報告第一号 外国人技能実習生の受入状況について

報告第二号 新型コロナウイルス感染拡大防止における対応について

報告第三号 福祉充実残高について

報告第四号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

- ・令和4年11月19日開催

議案第一号 令和4年度資金収支中間報告及び資金収支補正予算(案)の承認について

議案第二号 自由の杜 エアコン取替工事の契約について

議案第三号 評議員会の招集について

報告第一号 外国人籍職員の受入状況について

報告第二号 新型コロナウイルス感染症対応について

報告第三号 令和4年度上期 入退職状況について

報告第四号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

- ・令和5年3月11日

議案第一号 令和4年度 資金収支中間報告及び資金収支二次補正予算(案)の承認について

議案第二号 令和5年度 事業計画(案)及び、予算(案)の承認について

議案第三号 定款(案)の改定について

- 議案第四号 評議員選任・解任委員会の開催と候補者の推薦について
- 議案第五号 一般就業規則(案)の改定について
- 議案第六号 定年退職者再雇用規程(案)の改定について
- 議案第七号 評議員会の招集について
- 報告第一号 外国人技能実習生の受入状況について
- 報告第二号 新たなる外国人労働者の受入・特定技能への取組について
- 報告第三号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

【評議員会】3回

・令和4年6月16日

- 議案第一号 令和3年度 事業報告(案)の承認について
- 議案第二号 令和3年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算(案)の承認について
- 報告第一号 外国人技能実習生の受入状況について
- 報告第二号 新型コロナウイルス感染拡大防止に於ける対応について
- 報告第三号 福祉充実残高について
- 報告第四号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

・令和4年12月(書面決議)

- 議案第一号 令和4年度資金収支中間報告及び資金収支補正予算(案)の承認について
- 議案第二号 自由の杜 エアコン取替工事の契約について
- 報告第一号 外国人籍職員の受入状況について
- 報告第二号 新型コロナウイルス感染症対応について
- 報告第三号 令和4年度上期 入退職状況について
- 報告第四号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

・令和5年3月25日

- 議案第一号 令和4年度 資金収支中間報告及び資金収支二次補正予算(案)の承認について
- 議案第二号 令和5年度 事業計画(案)及び、予算(案)の承認について
- 議案第三号 定款(案)の改定について
- 議案第四号 評議員選任・解任委員会の開催と候補者の推薦について

- 議案第五号 一般就業規則(案)の改定について
- 議案第六号 定年退職者再雇用規程(案)の改定について
- 報告第一号 外国人籍職員の受入状況について
- 報告第二号 新たなる外国人労働者の受入・特定技能への取組について
- 報告第三号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

## 5. 監査の実施

【決算監査】1回 令和5年5月23日(火)午後4時～午後5時

堀越政美監事、久保田克秀監事、2名により、令和3年度法人並びに施設の事業報告、決算書並びに理事の業務執行の状況及び財産の状況について、社会福祉法第40条及び関係法令に基づき監査が、社会福祉法人ひとつの会 事業推進本部にて実施された。

監査の結果、法人並びに施設の事業報告、決算報告、決算付属明細表、財産目録等いずれも適正であることが承認された。

## 【令和4年度の状況・評価】

## 6. 事業運営

令和4年度も、コロナ禍に翻弄された1年であった。利用者・職員の新型コロナウイルス感染による、休業、閉鎖、職員不足等々、1年を通じて運営に影響を及ぼした。

特に、在宅利用者を抱えるデイサービス、ショートステイ事業所に関しては、収入源が断たれ、赤字月が多くあった。そのような中でも、3年目を迎えた小鯖拠点(特養・SS・小多機・廿高住)は、全ての事業所において満床、利用者の増加に伴う黒字化へ転ずることができた。

令和5年5月以降、2類から5類相当へ移行し、考え方や対応状況も変わるところであるが、介護・障害事業を運営する法人、また介護事業所として、感染対策や運営方法などは、現状維持、向上しなければならないため、次年度以降も検討・実施が必要である。

重点項目として掲げたICT化による業務効率改善については、2拠点(大崎・開出)で介護記録ソフトの導入ができた。さらに、残りの拠点についても、随時導入していきたい。

事業費・事務費の見直しについては、昨今の物価高、円高等の影響により、見直しどころか、費用増の結果となってしまった。食材料費、光熱水費、物品や契約金額の値上げ等々、この流れは、次年度以降もしばらく続くため、対策を講じていきたい。

BCP（事業継続計画）の策定については、遅ればせながら、ようやく法人内で立ち上げることができ、現在、継続策定中である。次年度完成期限に向け、費用面など重要課題があるが、着実に進めていきたい。

## 7. 人材確保 等

職員の入退職状況については、報告書を参考にさせていただきたいが、今年度も厳しい状況となっている。特に採用については、困難を極めている。ハローワーク（公共職業安定所）の求人サイトのみでは、人材は集まらず、法人内職員紹介制度、人材紹介業者、人材派遣業者など幅広いツールを駆使して求人募集していた。尚、人材紹介・派遣業者については、紹介手数料・掲載料等のコストが非常に高く、躊躇するケースもあった。次年度においては、より効率的な求人方法を模索し、検討、実施を行う予定である。

外国人技能実習生については、令和4年6月に3期生、令和5年1月に4期生が入国、入職することができた。技能実習生制度の改訂、また実習を終え、4年目を迎えた特定技能制度の職員の雇用等に伴い、技能実習制度から特定技能制度に則った職員の確保を目指し、次年度以降に組織等の構築を検討することを実施していく。

## 8. 地域連携

一昨年と比較すると、地域における活動も再開する動きがあった。新型コロナウイルス感染状況に翻弄されながら、防府市小野地区デイステーションの開催援助（送迎、指導員派遣）、各拠点での介護者教室や認知症介護啓発事業など、実施することができた。次年度は、1年間中止していたコミュニティ活動を再開する地域もあり、応援要請も来ているが、携わることができる職員が非常に少なくなっており、継続できるかどうか難しい状況である。

事業推進本部のみならず、拠点、事業所とも連携を図りながら、社会福祉法人としての地域貢献を実施するため、途切れることのないように、新たな体制づくりを模索する必要がある。

# ケアハウス あいおい苑

## 【事業基本方針】

入居者の生活を大切にし、安心して普通の生活が送れるような生活空間・人間関係の構築を目指す。

## 【目的】

利用者一人一人の“生活”を大切にし、当たり前のことが当たり前ででき、利用者が苑で快適に普通の生活が送れるように環境を整え、適切で質の高いサービスを提供する。

疾病や障害があっても、利用者様や御家族の意向を尊重しながら、苑での生活を希望される限り、安心・安全・安楽に配慮し援助する。

## 【入居者の状況報告】

入所者…15名、退所者…9名

## 【具体的事業報告】

～ 介 護 ～

### 1. “生活”という視点を持ち、共に“生活”する・共に“楽しむ”ことに努めた。

自分が生活したいと思える環境作りを行う上で、少しでも苑生活が楽しく過ごせる様に、入居者のニーズにあった取り組みを勧めてきた。コロナ禍で外出できないが施設内で出来る事を考え行った。また、家庭的な雰囲気を感じてもらえる様に心がけた。

その主な活動として、次の事を行った。

- ・入居者の誕生日には誕生日会を開き、喜んでもらえるようその方の好きな物を作り、皆でお祝いをした。
- ・苑の畑を活用し、季節の野菜を育て収穫し、その野菜を使ってユニットで調理し皆でいただいた。また、ユニットでも入居者様と一緒に野菜を育て収穫し料理した。
- ・安全で楽しく食事が出来るよう、食事前に嚥下体操を実施した。
- ・毎月ユニットでの行事を企画し、実施した。(料理・ゲーム等)
- ・1週間に1度喫茶を開催した。

### 2. コロナ禍だが、家族や地域との繋がりを維持し、少しでも深められるよう支援した。

今年度もコロナ禍で毎年行っていた家族交流会が行えず、また、夏祭りもご家族に参加してもらえなかった。しかし、保育園児の慰問は今年も行う事ができ、入居者様がとても喜ばれていた。

面会に関しても玄関でドア越しに限られた時間での面会で、入居者やご家族には寂しい思い

をさせてしまったが、顔を見られる事で安心はしてもらえた。

- ・年2回の“お便り”（利用者状況提供書）による日常生活のお知らせを発送した。
- ・毎月の行事・活動などをお知らせする広報誌（ななお）を作成し、家族へ発送した。

### 3. 利用者の生活を最後まで支援できる体制作りに努めた。

看取りについて介護職・看護職・その他の専門職が連携し、最後までその人らしい生活を送っていただけるように次のような支援を行った。

- ・看取りの生活を最優先し、安心して生活を送れるよう支援した。
- ・利用者・家族の意思を尊重したケアを行った。
- ・利用者の疼痛緩和に努め、併せて精神的痛みへのアプローチも行った。
- ・最後までその人らしく生きる事ができるよう職員一人ひとりが考え、ケアにあたった。
- ・家族へこまめな情報提供や現状報告を行うとともに、家族の精神的なケアも行った。

「介護・看護に関する知識や専門技術向上」として、多くの職員が参加できるよう施設内勉強会を勤務時間内にグループホームと合同で開催した。

4月…食中毒について

5月…認知症について・リスクマネジメントについて

6月…急変時の対応について

7月…認知症について・リスクマネジメントについて・接遇について

8月…リスクマネジメントについて

9月…高齢者虐待・身体拘束について・接遇について

10月…感染症について

11月…高齢者虐待・身体拘束について・接遇について

12月…高齢者虐待・身体拘束について（中止）

1月…認知症について・介護技術について

2月…看取りについて

3月…認知症について・介護技術について

～ 看 護 ～

#### 【運営方法】

専門職として関係職種との連携を行い、利用者様に介護・医療のサポートを行う。

必要時、苑内看護の実施と充実および通院治療の支援を行う。介護職員に対する基本的な医療・看護技術・知識の習得および助言を行う。

#### （安全）

\*胸部レントゲン撮影（100%） \*インフルエンザワクチン接種（100%） \*コロナワクチン5回接種（44/50名） ※5名は4回終了、1名は1回接種後副反応強く接種希望なし

\* 医療行為◇吸入 6 名

\* 訪問看護利用 \* 感染防止活動

**(勉強会の開催)**

感染 2 回/年 看取り 急変時の対応

**(安楽)**

\* 利用者様の『楽しみ』への援助 \* 苦痛の緩和 \* 看取りケアの実践

・カンファレンス ・情報交換、意向確認 ・エンジェルケア ・死生観教育 ・グリーフケア

☆看取り人数 (6 名)

**(安心)**

\* 年間を通し昼間は最低 1 名以上の配置 \* 夜間オンコール体制

\* 受診介助 (286 名) \* 入院介助 (14 名)

内訳 (入院・転居・死亡)	
入院	・肺炎・・・2 名 ・脳梗塞・・・2 名 ・骨折・・・3 名 ・心不全・・・2 名 ・コロナ陽性肺炎・2 名 ・その他・・・3 名
転居	3 名 (入院後の退所)
死亡	・死亡・・・6 名

ケアハウス看護の目標、『利用者や家族の意向を尊重しながら安全・安心・安楽に配慮し援助する』を日々努力してきた。

転落、転倒により骨折で入院をされた利用者様 3 名・肺炎 2 名・心不全 2 名・脳梗塞 2 名・コロナ陽性者 2 名・他の疾病での入院 3 名・他界された方 6 名であった。

コロナ陽性肺炎は 2 名発生したものの、直ぐに保健所の配慮により入院の運びとなり他入所者に感染が広がることなく 1 ヶ月は警戒体制をとった。毎日体温測定や簡易抗原検査等を施行して 1 名も追加感染者が出ることはなかった。

当苑での看取りも 6 名あり、利用者、家族、スタッフ、苑関係者、看護師で思い出話の中で最後を看取る事ができた。

年間、受診介助 (286 名)・入院介助 (14 名)・インフルエンザワクチン及びコロナワクチン予防接種・内服薬管理・健康管理等、業務の中でも家族との信頼関係の構築を重視し連絡を細目に行い、疑問・心配事・不満について拝聴し、返事・説明を行うようにしてきた。

～ 相 談 ～

施設の窓口としての役割を担い、利用者および家族からの相談や、各種職員との連携・サポートについて、誠意をもって応じるように努めた。

\* 利用者・家族・職員・関係事業所との関係構築を目的に主に以下の通り業務に努めた。

・個別外出の対応

- ・ケアハウス・GHの病院受診補助
- ・入退院の調整
- ・入退居の調整
- ・事故・苦情相談による対応
- ・広報誌“ななお”を毎月作成し家族へ発信・ホームページへの掲載
- ・新型コロナウイルスに関連する連絡、対応調整

\* あいおい苑の入退居、空床状況を随時確認しながら、外部・他部署・関係事業所との連携を図った。

- ・他居宅支援事業所へのパンフレット配布
- ・居宅支援事業所や医療機関へ空床状況等の情報共有
- ・空床時のショートステイ引き受け

#### ～ 機能訓練 ～

利用者の生活がより良いものになるように、それぞれのやりたいことや、できるようになりたいことを行えるよう、一人ひとりに合わせた訓練を実施できるよう努めた。ケガや入退院後の状態に合わせ、多職種と相談しながら、日常生活動作を再び行えるように繰り返しの訓練も実施した。

一日平均 7～8 名

- ・歩行訓練・・・24 名
- ・起立着席訓練・・・30 名
- ・筋力強化訓練・・・30 名
- ・体操・・・ほぼ全員
- ・関節可動域運動・・・3 名
- ・階段昇降・・・2 名
- ・座りかえ動作訓練・・・6 名
- ・マッサージ・・・3 名
- ・回想、嚥下訓練を目的とした発声や会話、歌・・・ほぼ全員

ユニット職員と協力し集団体操や嚥下体操は継続して出来た。

#### 【令和4年度の状況・評価】

#### ～ 介 護 ～

状況に関しては事業報告の通り。

コロナ禍で外出は4月に花見に行けたただけだったが、その分ユニット内で行事を企画し施設内で楽しんでもらえる様に務めた。

年に1度の誕生日にはその方の好きな物を作り、皆でお祝いし喜んでもらった。また、苑

の畑で採れた野菜を収穫・調理し季節を感じてもらえることはできた。

恒例のあいおい祭り、家族交流会は今年も行えず家族との信頼関係を築くことは難しかったが、制限の中での面会時には近況報告は行ってきた。

保育園児の慰問は今年も行え、利用者さんがとても喜ばれた事は良かった。

今年度は6名の看取りの方がおられた。職員一人一人がその方に寄り添い最後までその人らしく生活してもらえるように努めた。また、多職種・家族との情報の共有にも努めた。

今年度は毎月の勉強会を勤務時間内に行う事で非常勤職員も参加出来たことは良かった。

今後も他職種と連携をとりながら、入居者により良いケアが出来るように努めていきたい。

#### ～ 看護 ～

状況に関しては事業報告の通り。

今年もインフルエンザ・ノロウイルスの発症はなかったが、コロナウイルスの感染者は2名が出てしまった。

外出も面会も制限や禁止となり、受診・看取り等の家族への状態説明、情報提供の説明も今まで以上に神経を使い、特に看取りでは言葉を選びながらわかりやすく伝える努力をしたが意思疎通の難しさを感じている。

今後、利用者の高齢化が進み看取り対応も増えると予測される。コロナ禍での受診、看取り等についても対応していきたい。

また、家族への情報提供を正確に行い、利用者・家族の思いを大切にし、安心していただけるよう今後も努力していく。

#### ～ 相談 ～

令和4年度、入居については15名、退居については年間9名となっており、令和3年度の18名を大きく下回る事ができた。稼働率は年間96.5%となった。今後も継続して、各部署や外部事業所と連携を図りながら、スムーズな入退居に繋がるよう、取り組みたいと思う。

あわせて、現時点の入居者(利用者)、家族が安心して頂けるよう、又、職員の業務がスムーズに対応できるよう、相談窓口となりサポートに努めていきたい。

#### ～ 機能訓練 ～

8月以降看護師がリハビリと兼務となり、充分なリハビリを提供する事が出来なかった。しかし、看護の中で情報を共有し、特に可動域訓練やマッサージは継続して行うことが出来た。利用者からは「4階に上がってリハビリをしたい」という声もあったが、十分に満足してもらえないリハビリは提供できず、1日の平均人数も減少している。専門的な機能訓練のスタッフがいれば利用者のADLが維持でき、リハビリに対する満足度も向上していくと思う。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	2.5
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 1	14	15	17	17	16	16	16	17	18	18	18	19	16.8
要介護 2	13	13	12	11	12	12	10	9	10	10	10	10	11.0
要介護 3	6	5	5	4	4	5	4	3	3	3	3	4	4.1
要介護 4	6	6	7	7	7	7	7	8	8	8	7	7	7.1
要介護 5	5	5	6	7	7	7	8	7	7	7	7	7	6.7
合計	48	48	50	49	49	50	48	48	50	50	49	50	49.1
男性	11	10	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10.2
女性	37	38	39	39	39	40	38	38	40	40	39	40	38.9

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援 1	90	93	60	62	62	60	62	68	93	93	84	62	889	
要支援 2	6	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	341	
要介護 1	420	465	506	527	496	480	496	481	547	558	504	589	6,069	
要介護 2	398	380	360	341	372	354	339	282	298	310	280	310	4,024	
要介護 3	180	166	150	124	124	150	124	99	93	93	84	117	1,504	
要介護 4	120	186	210	227	217	210	217	240	248	248	219	217	2,559	
要介護 5	130	155	174	217	217	210	248	210	217	217	196	217	2,408	
合計	1,344	1,476	1,490	1,529	1,519	1,494	1,517	1,410	1,527	1,650	1,395	1,543	17,794	
													月平均延べ利用者数	1,482.8
													年間稼働率	97.5%
													平均介護度	2.32

# グループホーム 笑生苑

## 【事業基本方針】

1. 個人『らしさ』を大切に
2. 家庭的な環境づくり
3. 温かい心と尊厳の心
4. 地域との関わりを大切に
5. 笑って生活する

## 【目的】

1. 共助・・・『出来ない』ことへの支援
2. 共生・・・『談(団)らん』で和の時をもつ
3. 傾聴・・・『ゆっくり、ゆったり』
4. 地域交流・・・『気軽にホームに"おいでませ"』
5. 共働・・・『"信頼関係"の構築』

## 【入居者の状況報告】

入居者・・・5名

退居者・・・5名

男性・・・6名 女性・・・12名 計18名

平均介護度・・・(右田) 2.1 (佐野) 2.8 (笑生苑全体) 2.56

## 【具体的事業報告】

- ・入居者様の生活に楽しみやうるおい、刺激を少しでも感じていただけるよう、季節を感じる事が出来る飾り物の作成や、苑の畑で採れた野菜の収穫、季節の野菜を使った調理を行った。コロナ禍で制限の多い生活ではあったが、季節を感じてもらえることができた。
- ・活動を行う際は、笑生苑の職員だけで行うのではなく、他事業所を巻き込んだ。職員数の確保に繋げ、より多くの入居者様に参加していただく事ができた。
- ・コロナウイルス感染拡大防止の為、面会禁止の期間が長く続いていたが、11月より面会制限の緩和を行い、久方ぶりの面会にご家族、ご利用者とともに喜ばれる姿が多く見られた。シーツ類の洗濯物受け渡しの際やご家族同伴の受診時に生活の様子を伝え、ご家族からも生活の中で不安に思われている事、意見を聞くことで信頼関係の構築に努めた。
- ・笑生苑だよりを2か月に1回ご家族に発送を行った。
- ・新規入居者の受け入れの際は、しっかりと情報収集を行い他職員に周知し寄り添い関わる事で新規入居者が不安無く、施設生活にすこしでも早く馴染んでもらうことが出来た。
- ・介護と認知症に関する知識や専門技術向上”として、新型コロナウイルス感染予防の為、開催出来ない月もあったがケアハウスと合同で施設内勉強会を行った。開催出来ない月は資料のみ配布した。

- ・外部研修（グループホーム連絡会等）には zoom にて参加。
- ・技能実習生の受け入れ。
- ・地域と合同で避難訓練（今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、実施できず）

ケアハウス合同研修会	認知症ケア勉強会
4月…食中毒について	
5月…1・3週 認知症について 2・4週 リスクマネジメント	若年性認知症について…資料配布のみ
6月…緊急時の対応について	
7月…1・3週 認知症について 2・4週 リスクマネジメント	
8月…リスクマネジメントについて	若年性認知症について…資料配布のみ
9月…1・3週 高齢者虐待・身体拘束 2・4週 接遇について	
10月…感染症について	
11月…1・3週 高齢者虐待・身体拘束 2・4週 接遇について	認知症について
12月…身体拘束・高齢者虐待について	
1月…1・3週 認知症について 2・4週 介護技術	
2月…看取りについて	中核症状と行動心理症状（BPSD）について
3月…1・3週 認知症について 2・4週 介護技術	

●苑内行事

月		月	
4月	料理レク	10月	歓迎会
5月	誕生日会	11月	誕生日会
6月	誕生日会	12月	忘年会・クリスマス会・誕生日会
7月	歓迎会	1月	新年会・誕生日会
8月	コロナ感染の為、中止	2月	節分豆まき・誕生日会
9月	誕生日会	3月	誕生日会

## 【令和4年度の状況・評価】

- ・コロナウイルス感染防止の為、他事業所と協議し対策に取り組んだ。面会制限を行い施設内の予防としては職員、利用者の手洗い・消毒の徹底、手すりや机、椅子など生活内で触れる場所を毎日1日3回消毒し、職員のマスク着用を徹底し現在に至っている。
- ・職員としっかりコミュニケーションを図り関係を作る事で、相談できる関係性を作ってきた。職員の意見を反映させ、思いを汲み取ることで職員のモチベーションアップにも繋がって行くことが出来た。
- ・ユニットリーダーを中心に職員が意識して入居者一人一人と向き合って関わりを持つ事で、今年度は入居者の入れ替わりが殆どなく同じメンバーで過ごす事が出来た。
- ・今年度も地域と合同で避難訓練を運営推進会議の一環として行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の為、中止となった。運営推進会議も思うように開催できず、書面開催であった。
- ・技能実習生受け入れにより職員一人一人が介護動作・声掛け・関りを見直すいい機会となっている。指導する側の言葉を、指導を受ける側がどう捉えるか、しっかりコミュニケーションをとり、相手の性格等を見極めた上で、その人に合った指導方法を考えていく。
- ・8月に新型コロナウイルスの感染が判明し、その後感染は広がりクラスターへとなっていった。最終的に利用者3名、職員4名の感染となり、その後の感染拡大はなし。隔離期間中、山口県 DMAT クラスター対策チームが施設に来られ、感染対策や防護服の着脱方法まで徹底的に指導していただき、コロナ感染を経験したことで感染対策について新たに学んだことも多くあり、コロナへ罹らないのが一番だが、プラスに考えると知識を増やす良いきっかけとなった。もっともコロナに罹った利用者、職員のコロナ症状が重症化せず、現在もいつも通りの日常を送れていることが幸いである。

## 介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	4.9
要介護 2	3	3	4	5	5	4	4	4	5	5	4	4	4.2
要介護 3	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	5.0
要介護 4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要介護 5	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3
合計	18	16	17	18	18	16	17	17	18	18	18	18	17.4
男性	5	5	5	6	6	5	6	6	6	6	6	6	5.7
女性	13	11	12	12	12	11	11	11	12	12	12	12	11.8

## 介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	150	155	150	155	155	120	155	150	155	155	140	155	1,795
要介護 2	90	93	120	155	155	120	124	120	155	155	112	124	1,523
要介護 3	120	124	150	155	155	150	155	150	155	155	168	186	1,823
要介護 4	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
要介護 5	120	62	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	486
合計	540	496	510	558	558	480	527	510	558	558	504	558	6,357
													月平均延べ入居者数 529.8
													年間稼働率 96.8%
													平均介護度 2.46

# デイサービスセンター たまのや

## 【事業基本方針】

利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、可能な限り在宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮する。

## 【目的】

日常生活に結びついたリハビリを実施し、在宅生活に於ける楽しみ・生きがいづくり・様々な生活満足度を上げる介護サービスの提供をめざし、住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援につとめていく。

## 【具体的事業報告】

(1) パワーリハビリを継続実施し、トレーニング内容の充実を図った。

日常生活の中で必要な動作の維持・向上できる運動プログラムの構築と提供を実施した。また、利用者の自立心を大切にしながら、機能維持改善のための機能訓練も実施した。

- ・ パワーリハビリ、個別機能訓練の実施。健康運動実践指導者によるエビデンスに基づく機能訓練の実施。 ストレッチ体操、上肢・手指運動、嚥下体操、屋内外歩行の実施。
- ・ 柔道整復師・理学療法士の各専門分野においてアプローチできた。
- ・ 自立支援を念頭に在宅生活の継続を考えた生活リハビリの実施。
- ・ InBody を活用し身体状況の見える化を実現し、機能訓練のモチベーション向上が図れた。
- ・ メドマーを導入し、下肢の浮腫、疲労感の軽減にアプローチし、立位、歩行機能の維持向上に努めている。

(2) デイサービスの特徴でもある、グループダイナミクスを活かしたレクリエーション活動など、利用者が楽しめるように利用者のニーズに合ったプログラムの構築に取り組んだ。また、楽しみながら認知症予防プログラムの充実を図った。

- ・ 「たまのや喫茶」2ヶ月に1回 陶芸教室を実施  
(お皿、コップ、花瓶、季節の飾り物などご自分で作りたい物を作成)。
- ・ 作品作成 (空き缶風車、季節の壁画・クラフトバンドでの籠作り)
- ・ #利用者の生活を守る の合言葉のもと、季節感を感じる壁画作りの実施
- ・ 誕生月の利用者に個別の誕生会を実施し集団内での個別化を図った。  
(誕生日メッセージと手作りの記念品の贈呈)。
- ・ 頭の体操などの認知症予防プログラムの実施。(プリントや絵合わせなど)

(3) マッサージ・ウォーターマッサージの実施や安全で安楽な入浴サービスの提供を継続して行なった。

- ・ 柔道整復師によるマッサージ、ウォーターマッサージ・メドマーの実施。
- ・ 安全で安心のできる入浴サービスの提供。
- ・ 足湯や入浴時の足浴を含めたフットケアの実施。

(4) 行事実施状況

月	行事内容	月	行事内容
4月	桜見物（防府天満宮）	10月	運動会
5月	つつじ見物（大平山）	11月	紅葉見物（瑠璃光寺、毛利邸）
6月	映画鑑賞	12月	クリスマス会
7月	そうめん流し	1月	初詣（三社参り）「中止」
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老会	3月	ひなまつり

### 【令和4年度の状況・評価】

- ・ 専門職集団として、質の高いサービスを提供するために、介護福祉士、社会福祉士の資格試験への挑戦を勧めた。
- ・ ホール内の飾り物、様々なイベントを通じて「意図的な非日常的な空間作り」サプライズ感を味わっていただくことに努めた。
- ・ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院の地域連携室などの関係機関を訪問し地域のニーズや課題の把握に努めた。
- ・ 誠英高校、高川学園などの学生に現場の生の声を伝え、次世代の担い手の育成の為、専門職としての講義を行った。
- ・ 健康教室への年間28地域に講師派遣を行い、地域との顔の見える関係づくりと並行して、地域の課題を解決する手立てを模索し、地域に根ざした社会福祉法人となれるよう「ソーシャルデザイン」を持続的に実践している。
- ・ 在宅サービスとして、地域課題把握のため、地域の行事へ参加し住民の生の声を聴いた。
- ・ 榊島津製作所、防府市、山口市、山口大学附属病院、三田尻病院、当法人と産官連携し「認知症予防」という「社会課題の解決」に向けたプロジェクトをスタートし、山口県相互研修会での発表に向けて準備している。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	8	8	8	7	7	6	6	6	5	5	6	7	79
要支援 1	11	11	9	8	9	8	9	10	9	8	9	7	108
要支援 2	18	18	19	18	16	17	16	15	16	16	15	16	200
小計	37	37	36	33	32	31	31	31	30	29	30	30	387
要介護 1	33	34	35	34	34	30	34	36	35	31	29	32	397
要介護 2	14	16	16	17	18	17	18	20	18	14	16	17	201
要介護 3	10	9	10	11	11	10	10	10	11	10	9	8	119
要介護 4	8	9	11	7	6	7	7	7	7	8	8	8	93
要介護 5	4	4	5	4	6	4	6	6	6	4	5	7	61
小計	69	72	77	73	75	68	75	79	77	67	67	72	871
実費利用	4	5	5	6	6	6	6	5	6	7	6	7	69
合計	110	114	118	112	113	105	112	115	113	103	103	109	1,327

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
事業対象者	35	33	38	26	28	16	21	25	19	13	25	42	321		
要支援 1	71	55	52	48	44	36	45	60	49	24	41	41	566		
要支援 2	173	139	145	137	129	107	117	125	128	93	109	136	1,538		
小計	279	227	235	211	201	159	183	210	196	130	175	219	2,425		
要介護 1	326	326	312	327	307	237	337	353	336	201	266	311	3,639		
要介護 2	140	168	184	194	191	181	235	247	219	109	164	207	2,239		
要介護 3	111	101	129	138	138	103	133	134	153	75	91	94	1,400		
要介護 4	109	141	124	84	78	69	83	75	81	74	92	95	1,105		
要介護 5	36	39	47	39	22	26	78	81	74	35	53	73	603		
小計	722	775	796	782	736	616	866	890	863	494	666	780	8,986		
実費利用	15	15	19	25	20	24	17	24	26	17	28	35	265		
合計	1,018	1,017	1,050	1,018	957	799	1,066	1,124	1,085	641	869	1,034	11,676		
													月平均延べ利用者数	973.0	
														年間稼働率	72.0%
														平均介護度	1.49

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	0	2	2	4	2	2	5	1	3	3	1	2.3
体験利用	2	5	8	3	2	0	3	3	2	3	3	2	3.0

# ヘルパーステーションスマイルネット防府

---

## 【事業基本方針】

理念「誠実・信頼」をモットーに自立に向けた援助を行い状況変化に対応できるように、常に利用者に対し人生の先輩に学ぶ姿勢を持ち、寄り添い、同じ時間を共有させて頂く気持ちで、援助をさせていただく。

## 【目的】

利用者のニーズにあった訪問介護計画を作成し、他職種などと連携を図り、安心して在宅生活を送れるようにする。

## 【具体的事業報告】

令和4年のカレンダーの作成・配布  
利用者一人一人に誕生日プレゼント（タオル）

## 【令和4年度の状況・評価】

- ・コロナで研修ができなかったが、メールなどでヘルパー同志のコミュニケーションはとれた。
- ・どんな困難にも満足していただける支援をし、登録ヘルパーの充実にも力を入れた。
- ・コロナ対策にも気を付けた。

## 介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
要支援 1	4	4	5	5	5	4	3	3	3	3	3	3	45
要支援 2	8	7	8	8	8	7	7	6	6	6	5	6	82
小計	13	11	13	13	13	11	10	9	9	9	8	9	128
要介護 1	13	15	16	17	15	15	15	16	16	17	20	21	196
要介護 2	8	8	7	7	8	6	8	6	6	4	5	4	77
要介護 3	3	3	3	4	3	4	4	5	5	5	4	3	46
要介護 4	4	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5	4	56
要介護 5	3	2	1	2	3	2	1	1	1	0	0	1	17
小計	31	32	32	34	34	32	33	33	33	31	34	33	392
実費利用者	1	1	1	2	2	2	2	3	3	4	3	3	27
障害者総合支援	7	7	7	5	6	6	5	6	6	6	6	6	73
移動支援	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	54	53	55	56	57	53	52	53	53	52	53	53	644

## 介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
要支援 1	20	22	32	28	33	24	21	21	21	19	19	23	283
要支援 2	61	55	59	66	68	54	59	45	45	49	30	49	640
小計	83	77	91	94	101	78	80	66	66	68	49	72	925
要介護 1	136	147	178	180	176	169	196	210	195	205	223	263	2,278
要介護 2	193	193	155	131	106	84	118	85	80	63	61	66	1,335
要介護 3	55	66	61	117	112	132	149	149	148	141	74	77	1,281
要介護 4	137	125	142	116	108	106	109	108	107	88	158	139	1,443
要介護 5	60	22	13	25	29	12	12	13	11	0	0	26	223
小計	581	553	549	569	531	503	584	565	541	497	516	571	6,560
実費利用者	4	5	4	5	6	4	5	13	12	7	7	15	87
障害者総合支援	52	53	48	49	49	45	50	53	50	48	46	49	592
移動支援	4	3	3	4	2	3	4	3	2	3	3	3	37
合計	724	691	695	721	689	633	723	700	671	623	621	710	8,201
1日あたりの訪問件数	24.1	22.3	23.2	23.3	22.2	21.1	23.3	23.3	21.6	20.1	22.2	22.9	
										月平均延べ利用件数			683.4
										平均介護度			1.54

# 訪問看護ステーション スマイルネット防府

---

## 【事業基本方針】

主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者及び家族に対し必要とされる看護を提供する。

## 【目的】

利用者・家族に必要とされる看護を提供し、安心・信頼される関係を構築する。

## 【具体的事業報告】

1. 病状や体調の変化に注意し、悪化の防止・健康の維持増進を目標とする看護ケアを提供し、異常の早期発見に努め、医療機関（主治医）との連携を密にし、適時病状報告を行い、状態変化時には早急な対応を心がけた
2. 主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者・家族にとって最善の看護が提供できるように努めた。
3. 在宅（グループホーム含む）で終末期を迎えられる利用者に対し、本人・家族を含め安らかなその人らしい終末期を過ごすことが出来るよう関わった。
4. 医療連携を基にグループホーム・ケアハウス等法人内施設との連携を図り、入居者の健康状態の確認・病状把握・異常早期発見に努め、入居者が穏やかに安心して施設で生活できるようにサポートを行う。またオンコール～緊急時の対応（訪問）電話での相談・助言、医療保険（特別指示）での訪問を行った。

## 【令和4年度の状況・評価】

- ・他機関との連携（横のつながり）が広がり、丁寧に対応をしていくことで信頼を得て新規の依頼が増えた。
- ・介護保険の依頼が今まで以上に件数を増やすことが出来た。
- ・利用者及び家族に対し身体的・精神的援助を提供することが出来た。
- ・コロナに対しての予防や施設での発生時の対応・協力が出来た。
- ・提携する GH との連携もよく、きちんと対応することが出来た。
- ・在宅、施設ともに本人、家族の望む看取りを行うことが出来た。
- ・地域交流の場に積極的に参加出来た。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	1	2	2	2	3	3	5	5	5	5	5	5	43
要支援 2	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	5
要介護 1	2	3	2	3	3	4	4	4	4	5	5	7	46
要介護 2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4	35
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
要介護 4	3	3	3	1	1	1	1	1	2	2	2	3	23
要介護 5	3	3	2	3	2	2	2	2	2	1	1	1	24
医療(後期)	10	7	6	7	9	6	6	5	5	10	8	7	86
医療(国保)	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	23
医療(社保)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	24	23	19	20	23	22	24	21	24	29	27	30	286

介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	4	5	8	8	13	13	18	20	22	19	19	20	169
要支援 2	4	1	0	0	1	5	4	0	0	0	0	0	15
要介護 1	9	13	8	14	16	18	16	18	16	22	19	29	198
要介護 2	16	14	18	15	21	24	21	23	21	20	19	27	239
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
要介護 4	21	19	12	5	13	9	5	4	7	21	12	14	142
要介護 5	25	28	11	16	8	14	16	21	17	5	4	5	170
医療(後期)	212	151	140	232	203	85	192	117	94	228	241	169	2,064
医療(国保)	16	48	49	49	46	43	14	4	8	69	17	6	369
医療(社保)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	307	279	246	339	321	211	286	207	185	384	331	273	3,369
1日あたりの訪問件数	10.2	9.0	8.2	10.9	10.4	7.0	9.2	6.9	6.0	12.4	11.8	8.8	
										月平均訪問件数(介護)			78.0
										月平均訪問件数(医療)			202.8

法人内事業所との連携～医療特別指示による訪問件数 (令和3年4月～令和4年3月)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計件数	136	139	136	216	186	124	192	117	85	105	153	134	1723
ケアハウス(点滴)	60	0	0	87	30	15	81	31	15	42	67	21	449
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑生苑(点滴)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	22
(処置)	0	0	0	0	52	22	0	0	0	0	0	0	74
より愛(点滴)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由の杜(点滴)	0	9	10	45	0	6	69	24	18	18	5	0	204
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Filage(点滴)	27	84	84	42	62	39	0	20	10	12	39	42	461
(処置)	49	46	42	42	42	42	42	42	42	33	42	42	506
徳地(点滴)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 特別養護老人ホーム 自由の杜

### 【事業基本方針】

入居者一人ひとりの思いを大切に、毎日の生活が笑顔あふれる暮らしになるよう支援する。  
明るく家庭的な雰囲気を作り入居者にとって暮らしの継続となるよう支援する。

入居者一人ひとりの尊厳を守り、生活の継続を支援する。

入居者一人ひとりが穏やかで楽しく笑いが堪えない日々の生活を送れるように支援する。

法人理念『人の為に走れ』・施設理念『笑顔あふれる暮らし～あなたに会えてよかった～』

ユニットケア理念『暮らしの継続』を行動指針とし常に入居者とともに邁進する。

### 【目的】

入居者一人ひとりの特色を理解し、今までの暮らし・習慣を継続しつつ、施設サービス計画書を基にその人らしい生活が実現できるように援助する。

思いを汲み取り笑顔を引き出して、その人らしい生活が実現できるよう支援する。

家族の思いにも耳を傾け、連携していくことで笑顔あふれる毎日を過ごすよう支援する。

入居者一人ひとり、身体的・精神的状態が違う中で、その人にあつたライフスタイルを見極め、適切な介助・支援を行っていく。そのために職員の技術、意識の向上を目指す。

### 【入居者の状況報告】

#### 1. 入・退居状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	入居	退居	死亡退居
男性	3名	0名	1名
女性	12名	1名	10名
合計	15名	1名	11名

#### 2. 介護度別入居者数（令和4年3月31日現在）

平均介護度：4.17

	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合計
男性	－	－	－	3名	－	3名
女性	－	1名	5名	7名	12名	25名
合計	－	1名	5名	10名	12名	28名

3. 年齢別入居者数（令和5年3月31日現在）

平均年齢：89.4歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	1名	1名	1名	3名
女性	－	－	2名	8名	15名	25名
合計	－	－	3名	9名	16名	28名

**【具体的事業報告】**

1. 介護部門（ユニット）

せせらぎUT)

- ・入居者への声かけや関わりについて職員同士が意識し合い接遇力の向上に努めた。
- ・入居者のより良い思い出作りのため、ユニット行事の充実化を図った。

ひだまりUT)

- ・入居者の個性に寄り添いながら、その人らしさを引き出すように努めた。
- ・明るく落ち着いた環境を整備し、事故なく快適に楽しく過ごせる雰囲気提供に努めた。

かえでUT)

- ・職員個々人が気配りを意識し、連携の強化に努めた。
- ・職員本位の支援ではなく、入居者本位のサービス支援を徹底した。

2. 医務部門)

- ・リスクを予測し、状況を先見的に捉え異常の早期発見や予防に努めた。
- ・様々な手段やツールを活用し、医務室内及び多職種との連携強化に努めた。

3. 栄養部門)

- ・献立の検証を繰り返し、季節感や行事を感じて頂ける食事の提供に努めた。
- ・入居者個々人の状況を把握し、低栄養及び褥瘡の防止に努めた。

4. 歯科部門)

- ・歯間ブラシや器具等の活用、歯肉マッサージ等施行し残存歯の清潔保持に努めた。
- ・口腔ケアやマッサージ等施行し、誤嚥性肺炎の予防や唾液の分泌を促すことに努めた。

5. 生活相談部門)

- ・収入、稼働率、予算執行状況を把握しながら稼働率の安定化に努めた。
- ・職員個々人の役割の明確化や効率化を図り、職場環境の健全化に努めた。

## 【令和4年度の状況・評価】

新型コロナウイルスの陽性者が職員含め複数名発生し、長期にわたる感染対応を経験したが、重症化した入居者もなく、施設内療養の入居者を対応した職員の感染対策に対する高い意識や技術が養われた。

令和3年度同様、看取りを含め11名の退居者があり、次入居者の選定も時間を要した。また入居者の入院も頻回に発生し、年度を通して安定した稼働率を確保することができず、予算達成には至らなかった。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 3	5	5	4	3	2	1	1	1	2	4	4	5	3.1
要介護 4	7	8	9	10	9	11	11	12	12	10	10	10	9.9
要介護 5	15	14	14	15	16	16	15	15	13	13	12	12	14.2
合計	28	28	28	29	28	29	28	29	28	28	27	28	28.2
男性	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2	3	3	1.8
女性	27	27	27	27	26	28	27	27	26	26	24	25	26.4

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護 3	140	155	117	93	62	30	31	30	62	115	112	155	1,102
要介護 4	192	247	270	261	279	325	341	340	356	303	237	301	3,452
要介護 5	398	434	420	444	479	463	459	426	403	388	336	372	5,022
合計	760	867	837	829	851	848	862	826	852	837	713	859	9,941
													月平均延べ利用者数 828.4
													年間稼働率 93.9%
													平均介護度 4.32

# ショートステイ 自由の杜

## 【事業基本方針】

「在宅」という基盤を基に、ご本人・ご家族の意向に沿ったサービスを総合的に提供することで1人の人として社会生活を営むことができるように支援を目指す。

地域に根差し、密着したサービス拠点として、地域や家庭との結びつきを重視し安心して生活できるよう支援する。

## 【目的】

利用者個人に寄り添い、入居された時と同じ状態・状況で帰って頂けるように支援する。

居宅での生活そのままに利用中の生活との連続性に配慮し、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごして頂けるように支援する。

## 【具体的事業報告】

### 1. 介護部門（あんず UT）

- ・職員と利用者のコミュニケーションの場を増やし、アットホームな環境構築に努めた。
- ・楽しみのある空間整備や行事の充実化を図り、定期利用者の確保に努めた。

### 2. 医務部門）

- ・リスクを予測し、状況を先見的に捉え異常の早期発見や予防に努めた。
- ・様々な手段やツールを活用し、医務室内及び多職種との連携強化に努めた。

### 3. 栄養部門）

- ・献立の検証を繰り返し、季節感や行事を感じて頂ける食事の提供に努めた。
- ・入居者個々人の状況を把握し、低栄養及び褥瘡の防止に努めた。

### 4. 生活相談部門）

- ・収入、稼働率、予算執行状況を把握しながら稼働率の安定化に努めた。
- ・職員個々人の役割の明確化や効率化を図り、職場環境の健全化に努めた。

## 【令和4年度の状況・評価】

新型コロナウイルスの陽性者が職員含め複数名発生し、長期にわたる感染対応を経験したが、施設内療養の利用者を対応した職員の感染対策に対する高い意識や技術が養われた。

新型コロナウイルス陽性者の発生により利用者の受入れを一時制限した月もあったが、年度を通して安定した稼働率を確保することができず、予算達成には至らなかった。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0.3
要支援 2	1	2	0	1	1	0	1	1	4	1	0	0	1.0
要介護 1	8	10	12	10	8	9	10	13	9	11	9	12	10.1
要介護 2	8	9	8	9	9	11	7	6	4	3	7	7	7.3
要介護 3	10	5	4	4	4	4	5	7	4	7	7	5	5.5
要介護 4	4	4	2	3	3	4	3	3	2	1	4	5	3.2
要介護 5	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0.6
合計	32	31	27	30	27	29	26	30	23	23	28	29	27.9
男性	7	10	7	9	5	7	10	8	9	10	11	12	8.8
女性	25	21	20	21	22	22	16	22	14	13	17	17	19.2

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援 1	0	0	0	7	23	0	0	0	0	0	0	0	30	
要支援 2	5	10	0	8	21	0	2	5	35	5	0	0	91	
要介護 1	42	77	73	80	73	68	67	84	48	120	139	147	1,018	
要介護 2	59	54	68	112	76	97	69	38	26	10	50	54	713	
要介護 3	52	44	31	33	43	36	43	81	51	51	71	51	587	
要介護 4	30	28	36	28	40	38	27	10	11	5	15	36	304	
要介護 5	5	31	30	27	0	3	0	0	0	0	7	0	103	
合計	193	244	238	295	276	242	208	218	171	191	282	288	2,846	
													月平均延べ利用者数	237.2
													年間稼働率	78.0%
													平均介護度	2.05

# グループホーム 自由の杜

## 【事業基本方針】

### 運営の方針

同じ屋根の下、

1. 喜 … 共に喜び
2. 怒 … たまには怒ったり
3. 哀 … 哀しいときには傍に寄り添い
4. 楽 … 毎日楽しく笑いあえるような

そんな『あたりまえ』の生活が感じられるように支援する。

私たち介護スタッフも自分の家族を入居させたい、そんな「家創り」を目指していく。

### 【目的】

入居者・ご家族・スタッフで「慣れ親しんだ関係」を創り上げ、「思ひ出創り」を積み重ねる。

### 【入居者の状況報告】

#### 1. 入・退居状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	入居	退居
男性	1名	1名
女性	-	-
合計	1名	1名

#### 2. 介護度別入居者数（令和5年3月31日現在）

平均介護度：2.89

	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合計
男性	1名	-	1名	1名	-	3名
女性	1名	1名	2名	1名	1名	6名
合計	2名	1名	3名	2名	1名	9名

#### 3. 年齢別入居者数（令和5年3月31日現在）

平均年齢：85.9歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	-	-	-	2名	1名	3名
女性	-	-	-	5名	1名	6名
合計	-	-	-	7名	2名	9名

### 【具体的事業報告】

- ・入居者の思いに寄り添った言葉掛けを行い、入居者個々人に合わせた対応を実践した。
- ・会議や定期的な訓練を実施し、事故防止の取組みや事故発生時の備えを強化した。
- ・コロナウイルス感染症と共存しながらも家族とともに支える姿勢を築いた。

### 【令和4年度の状況・評価】

入居者の新型コロナウイルス陽性者は発生していないが、感染予防目的により家族や地域との繋がりが希薄化しているため、次年度の課題とする。

空床が生じた際も積極的に短期利用を受入れ、年度を通して高い稼働率を確保でき、収入の安定化が図れた。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7
要介護 2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1.7
要介護 3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3	2.6
要介護 4	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	1.8
要介護 5	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1.3
合 計	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9.0
男 性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.3
女 性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6.8

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
要介護 1	30	31	30	31	62	60	62	60	62	62	56	62	608	
要介護 2	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730	
要介護 3	90	93	90	93	62	60	62	60	62	67	84	93	916	
要介護 4	60	62	60	62	62	60	62	30	31	31	28	31	579	
要介護 5	30	31	30	31	31	30	31	60	37	31	28	31	401	
合 計	270	279	270	279	279	270	279	270	254	253	252	279	3,234	
													月平均延べ入居者数	269.5
													年間稼働率	98.4%
													平均介護度	2.93

# 特別養護老人ホーム Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指すものとする。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

## 【目的】

入居者一人ひとりの個性を尊重するため、施設の居室（個室）を10人程度のグループに分け、それぞれを一つのユニットとし、ユニットごとに食事・入浴・施設内の行事などの日常生活を送り少人数の家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケアすることを目的とした。

## 【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	入居	退居	死亡退居
男性	2名	1名	1名
女性	3名	4名	4名
合計	5名	5名	5名

2. 介護度別入居者数（令和5年3月31日現在）

平均介護度：4.28

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	－	1名	2名	－	3名
女性	－	1名	4名	6名	15名	26名
合計	－	1名	5名	8名	15名	29名

3. 年齢別入居者数（令和5年3月31日現在）

平均年齢：87.7歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	1名	1名	1名	3名
女性	－	－	5名	7名	14名	26名
合計	－	－	6名	8名	15名	29名

## 【具体的事業報告】

### 1. 介護部門（ユニット）

愛UT)

- ・記録の記入漏れを防ぐため、職員同士で声を掛け合い記録の正確性を高めた。
- ・職員個々人が入居者の把握と統一したケアを実践し、自立を促す適切な介助に努めた。

心UT)

- ・職員間の連携強化を目的に、コミュニケーションを図りやすい環境作りに努めた。
- ・指導法のマニュアル作成やチェックリストの活用等により統一したケアの実践に努めた。

夢UT)

- ・話しやすい環境を作り、職員同士の連携強化を図った。
- ・ケアの意識と知識の向上を目指し、急変時の早期発見や予防に努めた。

### 2. 医務部門

- ・加齢に伴う症状の出現や状態の悪化を防ぐため、早期発見と予防に努めた。
- ・様々な手段やツールを活用し、各ユニットとの連携強化を図った。
- ・家族の気持ちに寄り添い、看取り介護の充実化を図った。

### 3. 栄養部門

- ・厨房栄養士との協議を充実化し、入居者が笑顔になれる食事の提供に努めた。
- ・多職種連携し、一人ひとりに合った食べやすい食事の提供と栄養状態の維持に努めた。
- ・使用している商品の見直しを行い、嚥下食に掛かるコストの見直しを図った。

## 【令和4年度の状況・評価】

新型コロナウイルスの陽性者が職員含め複数名発生し、長期にわたる感染対応を経験したが、重症化した入居者もなく、施設内療養の入居者に対応した職員の感染対策に対する高い意識や技術が養われた。

入居者の入院も少なく、空床が生じた際も円滑に次入居者が選定され、年間稼働率 98% 以上の確保により収入の安定化が図れた。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.3
要介護 3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	5	3.5
要介護 4	11	11	11	11	11	11	12	8	8	7	7	8	9.7
要介護 5	15	15	15	15	15	15	14	17	16	16	16	16	15.4
合計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28	30	28.9
男性	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	2.2
女性	27	27	27	27	27	27	26	27	27	26	26	27	26.8

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	31	28	31	96
要介護 3	90	93	90	93	93	90	93	120	124	124	112	155	1,277
要介護 4	330	341	330	341	341	330	352	270	269	248	224	252	3,628
要介護 5	450	465	450	465	465	447	434	458	465	465	420	457	5,441
合計	870	899	870	899	899	867	879	848	864	868	784	895	10,442
	月平均延べ利用者数												870.2
	年間稼働率												98.6%
	平均介護度												4.39

# ショートステイ Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じて、自律した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症の状況等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行うこととする。
3. 相当期間以上にわたり継続して利用する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行うこととする。
4. 地域との結びつきを重視して県・市・居宅介護支援事業者・その他の居宅サービス事業者、そして保健・医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

## 【目的】

社会的孤立感の解消、心身機能の維持・向上を図ると共に、家族の身体的精神的負担を軽減することを目的とした。

## 【具体的事業報告】

1. 介護部門（ユニット  
絆U T）
  - ・各種ツールを活用し職員間の情報共有を図り、ケアの統一化に努めた。
  - ・利用者の生活リズムや関係性を把握し、余暇時間の充実化を図った。
2. 医務部門
  - ・加齢に伴う症状の出現や状態の悪化を防ぐため、早期発見と予防に努めた。
  - ・様々な手段やツールを活用し、各ユニットとの連携強化を図った。
3. 栄養部門
  - ・厨房栄養士との協議を充実化し、入居者が笑顔になれる食事の提供に努めた。
  - ・多職種連携し、一人ひとりに合った食べやすい食事の提供と栄養状態の維持に努めた。

## 【令和4年度の状況・評価】

新型コロナウイルスの陽性者が職員含め複数名発生し、長期にわたる感染対応を経験したが、施設内療養の利用者を対応した職員の感染対策に対する高い意識や技術が養われた。

新型コロナウイルス陽性者の発生により利用者の受入れを一時制限したが、年間稼働率 90%以上の確保により収入の安定化が図れた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1				1									1.0
要支援 2	1		2	1	1	1	2	1				2	1.4
要介護 1	8	8	7	5	6	5	6	4	8	9	8	5	6.6
要介護 2	17	15	16	16	14	16	18	14	14	10	12	9	14.3
要介護 3	5	6	4	6	8	5	7	4	8	7	12	11	6.9
要介護 4	6	6	7	6	7	6	6	7	4	4	5	5	5.8
要介護 5	2	2	3	3	2	3	4	4	2	2	1	1	2.4
合計	39	37	39	38	38	36	43	34	36	32	38	33	36.9
男性	12	11	11	11	13	9	18	11	17	11	16	10	12.5
女性	27	26	28	27	25	27	25	23	19	21	22	23	24.4

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
要支援 2	7	0	18	9	7	5	6	7	0	0	0	9	68
要介護 1	38	39	44	36	29	16	32	29	54	34	57	39	447
要介護 2	119	105	88	98	84	106	113	85	87	83	95	56	1,119
要介護 3	16	32	20	36	53	38	24	20	39	65	116	126	585
要介護 4	93	95	89	90	90	77	63	57	41	49	52	42	838
要介護 5	18	19	25	35	36	49	54	28	8	9	14	17	312
合計	291	290	284	306	299	291	292	226	229	240	334	289	3,371
	月平均延べ利用者数												280.9
	年間稼働率												92.4%
	平均介護度												2.49

# グループホーム Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 認知症によって自律した生活が困難になった要支援・要介護状態の利用者に対して、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、心身の特性を踏まえ、入居者がその有する能力に応じ自律した日常生活を営むことができるよう、食事・入浴・排泄等の介護その他日常生活上の世話及び機能訓練等必要な援助を行う。
2. 入居者の認知症状の緩和や悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
3. 入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して支援する。
4. 市・地域包括支援センター・居宅介護支援事業者、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

## 【目的】

“楽しい”運動をもとに、身体造り

“笑顔の”会話をもとに、心の安らぎを

“おいしい”食事をもとに、幸せな1日を

そして、寝る前に「今日は楽しかった・・・」と感じてもらえる

そんな“あたりまえな”暮らしを行えるように支援した。

今しかできない事、今だからできることを共に行った。

## 【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	入居	退居
男性	1名	1名
女性	3名	3名
合計	4名	4名

2. 介護度別入居者数（令和5年3月31日現在）

平均介護度：3.06

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	—	2名	—	1名	—	3名
女性	1名	2名	8名	2名	2名	15名
合計	1名	4名	8名	3名	2名	18名

3. 年齢別入居者数（令和 5 年 3 月 31 日現在）

平均年齢：92.3 歳

	65 歳未満	65 歳以上 70 歳未満	70 歳以上 80 歳未満	80 歳以上 90 歳未満	90 歳以上	合計
男性	－	－	1 名	2 名	－	3 名
女性	－	－	－	2 名	13 名	15 名
合計	－	－	1 名	4 名	13 名	18 名

**【具体的事業報告】**

笑 UT)

- ・入居者個々人と触れ合う機会を確保し、入居者の思いを的確に把握することに努めた。
- ・季節感溢れる創意工夫した行事企画を実施し、笑顔溢れる環境の構築に努めた。

幸 UT)

- ・入居者の ADL や認知機能の維持を目的に、レクリエーションの充実化を図った。
- ・様々な手段やツールを活用し、ケアや業務の統一化を図った。

**【令和 4 年度の状況・評価】**

新型コロナウイルスの陽性者が職員含め複数名発生し、長期にわたる感染対応を経験したが、重症化した入居者もなく、施設内療養の入居者を対応した職員の感染対策に対する高い意識や技術が養われた。

年間を通して入院者が多く発生したが、空床が生じた際は円滑に次入居者が選定でき、年間稼働率 98%以上の確保により収入の安定化が図れた。

介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2.2
要介護 2	3	3	4	4	4	5	5	5	4	4	4	4	4.1
要介護 3	6	6	6	5	5	5	6	6	7	7	7	8	6.2
要介護 4	4	4	4	5	5	4	4	3	3	3	3	4	3.8
要介護 5	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2.1
合計	18	18	19	18	18	19	19	18	18	18	18	19	18.3
男性	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3.2
女性	15	15	16	15	15	15	15	15	15	15	15	16	15.2

介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	72	74	60	43	55	60	62	60	62	62	56	31	697
要介護 2	90	93	108	124	124	129	155	140	124	124	112	124	1,447
要介護 3	180	186	180	155	155	150	183	180	217	217	196	194	2,193
要介護 4	90	93	90	124	124	120	95	90	93	85	84	120	1,208
要介護 5	90	93	90	93	93	73	62	60	62	62	56	62	896
合計	522	539	528	539	551	532	557	530	558	550	504	531	6,441
													月平均延べ入居者数 536.8
													年間稼働率 98.0%
													平均介護度 2.98

# **デイサービスセンター Filage 開出**

## **【事業基本方針】**

1. 利用者がお世話を受ける受動的な存在におさまらず、各自が役割を持ち、自らの様々な能力や残存機能を発揮し、その存在意義を見出せるように支援を実施した。
2. 常に利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ち、公正中立に努めた。
3. 利用者の住みやすい地域での暮らしを支えるために、医療機関や他の介護事業者、地域の住民等と連携し、利用者を支える地域連携の拠点としての機能を展開した。

## **【目的】**

利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活のお世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る事を目的とする。

## **【具体的事業報告】**

- ・ 接遇力の向上に努め、利用者への声かけや関わりの改善を図った。
- ・ 利用者個々人に合った支援方法を協議し、介護技術の向上と統一化を図った。
- ・ 職員同士のコミュニケーションを充実化し、多職種連携の強化に努めた。

## **【令和4年度の状況・評価】**

年度途中までは安定した稼働率の確保ができ、予算達成を見据えていたが、1月に新型コロナウイルスの陽性者が相次ぎ発生し、感染拡大防止の目的で2度の臨時休業を行ったため大幅な減収となった。減収となった単月を除けば安定した稼働率と収入が確保できた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	19	17	18	17	16	15	16	15	16	16	16	16	197
要支援 1	8	9	12	14	11	10	11	9	11	8	9	10	122
要支援 2	15	13	12	12	12	11	12	13	12	10	13	12	147
小計	42	39	42	43	39	36	39	37	39	34	38	38	466
要介護 1	32	32	33	29	28	27	28	30	29	28	28	28	352
要介護 2	21	26	26	28	25	28	28	28	26	28	26	24	314
要介護 3	7	6	7	9	10	8	9	9	9	9	8	10	101
要介護 4	7	7	9	10	9	8	8	8	6	5	6	7	90
要介護 5	2	2	2	1	1	2	2	2	1	1	1	1	18
小計	69	73	77	77	73	73	75	77	71	71	69	70	875
実費利用	0	0	2	2	9	11	11	10	9	8	8	10	80
合計	111	112	121	122	121	120	125	124	119	113	115	118	1,421

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
事業対象者	74	65	72	68	65	62	64	63	67	33	59	65	757	
要支援 1	28	32	54	52	47	36	43	33	45	19	32	45	466	
要支援 2	107	90	91	93	91	76	82	86	85	41	87	88	1,017	
小計	209	187	217	213	203	174	189	182	197	93	178	198	2,240	
要介護 1	299	301	330	295	280	257	274	306	269	149	263	308	3,331	
要介護 2	215	240	252	242	247	257	242	253	270	149	244	239	2,850	
要介護 3	54	45	65	92	90	99	109	108	103	52	90	125	1,032	
要介護 4	79	73	81	104	90	64	78	64	64	31	62	60	850	
要介護 5	13	13	15	7	9	11	11	13	9	4	8	5	118	
小計	660	672	743	740	716	688	714	744	715	385	667	737	8,181	
実費利用	0	0	8	7	30	35	38	37	39	20	33	45	292	
合計	869	859	968	960	949	897	941	963	951	498	878	980	10,713	
													月平均延べ利用者数	892.8
													年間稼働率	75.8%
													平均介護度	1.34

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	1	4	6	3	3	5	1	3	1	1	1	0	2.4
体験利用	1	6	6	4	4	6	1	7	5	2	2	0	3.7

# グループホーム 笑生苑より愛

## 【事業基本方針】

「地域の中のより愛」

～近隣との良き交流のある生活～

## 【目的】

地域の一員として自治会や近隣の方々に見守られている。苑庭にある畑に近隣の方が手入れを行い、また入居者の話し相手にもなっている。日常に近隣の方が来苑する、開かれた苑の運営を実施する。

## 【入居者の状況報告】

- ・入居者状況  
平均介護度・・・2.1    平均年齢・・・88.4歳  
男性・・・2名、女性・・・6名
- ・入退去状況  
  «入居»1名    女性・・・1名  
                  (自宅から 1名)  
  «退去»2名    女性・・・2名  
                  (他事業所のGHへ 1名、退院見込みなし 1名)

## 【具体的事業報告】

- ・地域行事への積極的な参加として、4月と12月に農・排水路の清掃作業を行った。
- ・月2回昼食作りを行っている。畑で収穫した野菜を使い、季節を感じられるように工夫している。
- ・外出が出来ない分、おやつ作りを月2回に増やしたり、ドライブに出かけたりと気分転換が図れるように努めた。
- ・今年度から曜日ごとに午後の活動を定期的に行うことにしている。月曜はレク・ゲーム、水曜は習字・硬筆、金曜は塗り絵とした。職員は慣れないことに負担を感じる様子もあったが、今ではスムーズに行えている。入居者も楽しみになったのか、時間を見てリビングに出られる方がおられる。

### 3、月別行事

月	実施項目	場所	目的
4月	ドライブ	市内	季節を感じる。
5月	玉ねぎの収穫 スポーツ大会	より愛 より愛	収穫を喜ぶ。 運動不足解消・気分転換を図る
6月	ドライブ	市内	気分転換。
7月	ドライブ すいか割り	市内 より愛	気分転換。 季節を感じる。
8月	夏祭り	より愛	回想。
9月	敬老会	より愛	長寿を祝う。
10月	スポーツ大会 サツマイモ掘り	より愛 より愛	運動不足解消。他者との交流。 収穫を喜ぶ。
11月	ドライブ	市内	気分転換。
12月	ケーキ作り クリスマス会 もちつき	より愛 より愛 より愛	季節を感じる。 季節を感じる。 回想。
1月	おしるこ作り・鏡開き 書初め	より愛 より愛	季節を感じる。 季節を感じる。
2月	豆まき チョコバイキング	より愛 より愛	季節を感じる。他者との交流。 季節を感じる。
3月	ドライブ	市内	季節を感じる。

・月間行事：クッキング（月2回：日曜日）

・おやつ作り（月2回）

・避難訓練実施：5・11月 風水害避難訓練実施：9月

・外部評価（一般社団法人広島県シルバーサービス振興会）：2月2日

・5回目コロナウイルスワクチン予防接種：12月21日

## 【令和4年度の状況・評価】

### ・空床が続く

昨年から90歳以上の方の体調を気にかけてはいたが、100歳の方が肺炎で入院となり、退院の見込みがないということで退居に至った。その後、入院される方が続き、居室を2階から1階へ変更することになり、2階の部屋が空いている。階段の昇降が出来ることなど入居されるにあたっての条件が加わりなかなか難しい。

### ・新型コロナウイルスの感染

昨年はクラスターが発生したが、今年は職員1名(12月)、濃厚接触者1名(1月)に留まった。今後も感染に気をつけ、入居者や職員に症状が現れた場合には、早期に感染のある方を発見することで、感染拡大を防止していきたい。

介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	4	5	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3.5
要介護 2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	1.9
要介護 3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	0	1.6
要介護 4	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1.4
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8.4
男性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
女性	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6.4

介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	120	155	120	124	124	90	93	90	93	93	84	93	1,279
要介護 2	30	31	60	62	62	60	62	60	62	62	56	93	700
要介護 3	90	62	60	62	62	60	62	30	31	31	28	0	578
要介護 4	30	31	30	31	31	30	31	60	62	62	56	62	516
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	270	279	270	279	279	240	248	240	248	248	224	248	3,073
													月平均延べ入居者数 256.1
													年間稼働率 93.5%
													平均介護度 2.11

# デイサービスセンター 宇部あいおい苑

## 【事業基本方針】

1. 利用者の自立支援を最大の目的として、利用者の自主的な考え方や思いなどを理解し、出来るだけ実現できるようにする。
2. 各利用者それぞれにあわせたレクリエーション、機能訓練等をきめ細かく行う事で、利用者に満足して頂き、同時に問題点を解決していく。
3. ケアマネ、家族との連携をとり、利用者が抱える問題点を解決し、過ごしやすい環境作りを行っていく。
4. 職員一人一人が問題意識を持ち、より良い支援が出来るようにお互いが努力、研鑽していきけるようにする。

## 【目的】

1. 全ての利用者に楽しんでいただけると共に、自立に繋がる支援を目的とする。
2. 全ての利用者に、少しでも精神的・身体的に維持又は向上して頂くことを目的とする。
3. 在宅生活で抱えている問題を少しでも改善し、また、各利用者の意思、思いを出来るだけ可能にするような援助・支援を目的とする。

## 【具体的事業報告】

1. 通所計画・個別機能訓練計画書に基づき、その人にあった介護サービスの提供、個別機能訓練・集団体操の提供を行っていく。
2. 定期的にカンファレンスを実施し個別ケアを充実させていく。
3. レクリエーション内容については、具体的な週間・月間カレンダーを作成し、利用者に告知していく。
4. 日常的なレクリエーション、非日常的に行うレクリエーションをバランス良く取り入れる。
5. 施設内での研修・勉強会などを実施する。

## 【令和4年度の状況・評価】

令和3年度より大きく稼働を落とし、前年度対比 6,600 千円の事業活動収支差額マイナスとなった。4月・8月と新型コロナクラスターが発生し、特に8月の発生後は入居や入院により登録者数が6名減となり、下半期の収入に大きな影響を与えた。

合わせて、7～10年利用されていた「1人あたりの週の利用回数が多い方登録者」の入居・入院に伴う在宅生活終了によりデイサービスの利用終了が年間を通して続き、延べ利用人数が大幅に減少してしまった事が、稼働減・収入減の大きな原因となっている。

また、9月の苑長交代時に、旧・新苑長それぞれが濃厚接触者または濃厚接触者の疑いがある状況であったため引継業務を行えず、各居宅介護支援事業所や高齢者総合支援センターとの関係構築が後手になり、その信頼回復に時間を要した。

年度後半は体験や新規登録も毎月複数件となっていることも踏まえ、まずは登録者数を48件にすることを当面の目標にしている。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	4	5	5	5	3	3	3	2	3	2	2	2	39
要支援 2	3	3	3	3	4	1	3	3	4	4	4	4	39
小計	7	8	8	8	7	4	6	5	7	6	6	6	78
要介護 1	10	9	11	13	11	10	9	11	10	13	13	14	134
要介護 2	10	10	10	9	9	7	7	8	8	8	10	9	105
要介護 3	8	8	8	8	8	8	8	8	9	7	7	7	94
要介護 4	4	4	4	3	3	3	3	4	4	4	4	5	45
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
小計	32	31	33	33	31	28	27	31	32	33	35	35	381
実費利用	2	3	3	3	3	1	2	2	2	2	2	2	27
合計	41	42	44	44	41	33	35	38	41	41	43	43	486

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	9	23	20	22	8	9	14	12	14	11	8	11	161
要支援 2	24	27	25	20	19	9	18	15	16	17	22	23	235
小計	33	50	45	42	27	18	32	27	30	28	30	34	396
要介護 1	89	87	93	101	90	68	75	80	63	92	103	138	1,079
要介護 2	130	138	143	136	95	99	119	106	115	99	106	92	1,378
要介護 3	120	125	122	129	111	110	123	116	124	78	61	67	1,286
要介護 4	41	56	32	31	27	28	36	43	43	41	40	41	459
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	13	7	9	0	29
小計	380	406	390	397	323	305	353	345	358	317	319	338	4,231
実費利用	9	11	9	10	4	3	8	8	6	5	7	7	87
合計	422	467	444	449	354	326	393	380	394	350	356	379	4,714
										月平均延べ利用者数			392.8
										年間稼働率			54.0%
										平均介護度			1.75

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	0	0	2	2	1	0	1	1	3	2	3	3	1.5
体験利用	1	0	2	5	0	1	0	1	3	3	4	3	1.9

# ヘルパーステーション 宇部あいおい苑

## 【事業基本方針】

1. 利用者の思いをして大切に、利用者の生活に寄り添いながら、在宅生活が、安心・安全に過ごせるように、支援・援助を行う。
2. 訪問を重ねるごとに、利用者にも、家族にも満足していただけるよう、常に考え質を高めていく。

## 【目的】

1. 常に利用者を中心に考え、在宅生活が本人らしく、自立して過ごせるような支援・援助を目的とする。
2. 本人だけでなく家族や地域なども含めて連携し、細やかな配慮の出来る支援・援助を目的とする。

## 【具体的事業報告】

1. 業務内容の見直しを図り、事務作業の効率化を進める。
2. 特定事業所加算（Ⅱ）算定必須事項による、ヘルパーの訪問毎の報告により、正確な現状把握をする。サ責からの毎回指示の実行により、次回の訪問がさらに良くなるよう支援に活かす。
3. 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所への現状報告書作成及び、積極的な情報提供を行う。
4. 宇部市訪問介護事業所連絡会・研修会に参加し、情報・意見交換継続強化と介護技術、知識の向上を目指す。
5. 宇部CM・家族・他事業所関係者との密な連絡・連携の確保
6. 報告・連絡・相談（ほうれんそう）の徹底

## 【令和4年度の状況・評価】

令和4年4月に近隣事業所のヘルパー事業所を譲受した事もあり、26,247千円の事業活動収入、8,048千円の増収となった。

事業規模の拡大に年度当初は運営体制や支援方法に混乱が見られた場面もあったが、譲受先職員が継続しての勤務となり、譲受先利用者との関係性や支援内容を円滑に継続することが出来たのは、職員同士の活性化にも繋がり、好循環の大きな要因となった。

新型コロナウイルス流行の影響により利用者や職員からも発症者がある中、勤務調整や感染対策対応に追われたが、それを乗り越えたことを糧とし、“報告・連絡・相談”“チームワークの良さ”を徹底しつつ、令和5年度以降の“継続的な事業運営を考える”1年間であった。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	49
要支援 1	4	3	4	5	5	4	4	4	5	5	5	4	52
要支援 2	17	18	17	17	18	19	18	17	17	16	15	14	203
小計	26	25	25	26	27	27	26	25	26	25	24	22	304
要介護 1	25	27	29	28	27	29	31	31	30	33	34	32	356
要介護 2	11	10	9	9	9	9	9	9	10	11	11	11	118
要介護 3	3	3	2	2	2	1	0	1	1	0	0	2	17
要介護 4	2	2	1	1	1	2	4	4	5	3	3	0	28
要介護 5	1	2	2	2	1	1	2	1	1	1	0	1	15
小計	42	44	43	42	40	42	46	46	47	48	48	46	534
実費利用者		3	1	4	3	3	0	2	3	1	0	0	20
合計	68	72	69	72	70	72	72	73	76	74	72	68	858

介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
事業対象者	17	15	17	15	16	16	16	17	16	15	15	18	193		
要支援 1	14	12	18	17	15	20	14	17	25	28	27	26	233		
要支援 2	118	123	107	114	134	122	118	115	128	115	110	108	1,412		
小計	149	150	142	146	165	158	148	149	169	158	152	152	1,838		
要介護 1	202	226	249	214	253	238	261	244	254	270	269	295	2,975		
要介護 2	106	81	75	69	69	79	81	82	105	106	93	106	1,052		
要介護 3	14	12	18	10	7	1	0	1	1	0	0	33	97		
要介護 4	13	9	5	4	3	9	41	33	15	9	6	0	147		
要介護 5	5	21	65	60	58	37	61	52	54	49	0	41	503		
小計	340	349	412	357	390	364	444	412	429	434	368	475	4,774		
実費利用者	0	9	1	6	5	8	0	2	5	2	0	0	38		
合計	489	508	555	509	560	530	592	563	603	594	520	627	6,650		
1日あたりの訪問件数	16.3	16.4	18.5	16.4	18.1	17.7	19.1	18.8	19.5	19.2	18.6	20.2			
													月平均訪問件数	554.2	
														平均介護度	1.10

# 居宅介護支援事業所 宇部あいおい苑

## 【事業基本方針】

介護保険法の理念に基づき、高齢者が在宅にて自立した生活を送れるよう、また介護者が在宅で介護できるように、行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センター・地域の資源の活用も含めた居宅サービス計画書の作成、介護保険の相談業務を行なう。

## 【目的】

利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、その人らしく生活を継続できるように中立・公平的な視点からサービス利用の調整を行う。

介護が必要な状態になっても、自身の有する能力に応じて可能な限り生活を営むことができるよう、心身の状況や環境因子に配慮し必要なサービスや社会資源を提供する。

## 【具体的事業報告】

- ① 住み慣れた地域で在宅生活が続けられるように、適切な福祉サービス・医療・社会資源の機能を有機的につなげ、きめ細やかなサービスを提供。
- ② 近隣の病院・地域包括支援センターや様々な社会資源とのネットワーク・信頼関係の構築するため迅速・丁寧・確実な対応。
- ③ 多様化するニーズに対応する為、職員それぞれが研修参加や新たな社会資源の発見を行い自己研鑽に努めた。

## 【令和4年度の状況・評価】

- ① 今年度は前年度と比較してもほぼ変化のない年となった。微増ではあるが事業収入が増えている要因として、要介護4の利用者が前年比に比べ24人増えている事と、要支援の利用者が約20人減少した利用者バランスが影響している。
- ② 新規の獲得件数に関しては昨年より1人増の合計36件。  
ターミナルの利用者増が、要介護4の利用者増に繋がったと考えられる。
- ③ 同事業所への紹介率はヘルパーが60%・デイサービスは45%という結果であり、デイサービスへの紹介があまりできていない事が分かる。  
介護度の高い方はどうしても、ヘルパーへの紹介となってしまう事が結果になっている。
- ④ 当居宅職員は2名であるが、2名とも主任資格を取得しているため定期的な研修を受ける必要があるため、必然的な自己研鑽にも繋がった。

## 介護度別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	2	2	18
小計	3	2	2	2	2	2	2	2	4	4	3	3	31
要介護 1	26	27	29	31	27	25	28	30	28	28	27	30	336
要介護 2	17	16	17	17	14	12	11	10	11	11	14	11	161
要介護 3	8	7	9	9	10	10	10	9	9	10	8	9	108
要介護 4	9	9	8	8	8	10	12	10	10	10	10	10	114
要介護 5	4	3	5	2	2	5	6	6	4	4	5	5	51
小計	64	62	68	67	61	62	67	65	62	63	64	65	770
合計	67	64	70	69	63	64	69	67	66	67	67	68	801
													月平均利用者数 66.8

# グループホーム 湯田あいおい苑

## 【事業基本方針】

- “地域と友（共）に”を大切にしています
- “笑いの絶えない心地よい空間”を大切にしています
- “約束を守る”を大切にしています
- “音のある風景”を大切にしています
- “温もりの香り”を大切にしています
- “認知症を個性ととらえ思いやりの介護”を大切にしています

## 【目的】

家庭的な生活のもとで、安全で住みやすい環境作りを行い、日々の生活の中で身体機能維持・向上を図り、楽しく毎日の生活ができるように支援させていただいています

## 【入居者の状況報告】

### (1)入退居・入院状況

- ・退居者 5名 入居者 4名

### (2)入居者の年齢

- ・70歳代×3名 ・80歳代×7名 ・90歳以上×3名 平均年齢 87.3歳

### (3)病名

- ・アルツハイマー型認知症 11名
- ・血管性認知症 6名

### (4)障害高齢者の日常生活自立度

- ・J1×1名 ・J2×3名 ・A1×7名 ・A2×3名 ・B1×2名 ・B2×1名

### (5)認知症高齢者の日常生活自立度

- ・Ⅱb×6名 ・Ⅲa×6名 ・Ⅲb×1名 ・Ⅳ×4名

### (6)医療機関への受診

- ・おおうちクリニック ・すえなが内科在宅診療所 ・福田歯科医院
- ・仁保病院 ・こころの医療センター
- ・山口赤十字病院 ・済生会山口総合病院 ・佐々木外科病院
- ・ながた泌尿器科 ・大野整形外科リウマチ科 ・いがた眼科
- ・とみなが皮膚科 ・せぐち皮膚科
- ・ひまわり耳鼻科クリニック ・おがたクリニック耳鼻咽喉科
- ・訪問看護おかふじ

## 【具体的事業報告】

- (1) 市内探訪：車窓から季節の風景を楽しんでいただいた  
桜・つつじ・紫陽花・楓・初詣
- (2) 毎月の行事：誕生会、音楽レクリエーション、手芸教室、料理（土曜日）  
季節の行事：母の日、夕涼み会、敬老会、バーベQ大会、大運動会  
体育祭、クリスマス会、正月準備、寿司パーティ、節分、ひな祭り
- (3) 地域との交流：散歩でご近所さんと挨拶、回覧板を持っていく
- (4) 日常的なアクティビティ：書道、ラジオ体操、DVD体操、唱歌、塗り絵、パズル、折り紙、計算ドリル、漢字ドリル、家事手伝い（洗濯物を干す、置く、食器洗い、台拭き、掃除）

※地域行事等社会交流が困難な状況が続いているが、散歩やドライブなどで季節感を感じていただけるよう取り組んできました。

## 【令和4年度の状況・評価】

- ・新型コロナウイルス感染等について、職員2名の感染はあったもののご利用者様へ感染は防止できた。今後もウイルスを持ち込むことがないように日々感染対策を行っていきます。
- ・昨年同様看取りを含む入退居があり、年齢的には若返っているが認知症自立度については大きな変わりはなく、徘徊等重度化したご利用者様が多くなっている。そのため転倒、転落、離脱等の事故が増え、見守介護が必要な場面が多くなった分、職員の負担が大きくなっています。
- ・外出やご家族様との面会に制限があることで、認知症の進行やADLの低下、特に下肢筋力の低下がみられ残念に感じています。
- ・毎月の認知症勉強会に加え、定期的な身体拘束虐待勉強会を主軸とし、繰り返すことで自ら考える訓練、よりよい環境に近づけるための風土づくりに繋がっていく事が目標に取り組みました。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	3	4	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	5.3
要介護 2	6	6	4	4	3	3	3	2	2	3	3	3	3.5
要介護 3	7	7	7	7	8	8	8	8	6	7	7	6	7.2
要介護 4	1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	1	0.8
要介護 5	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0.7
合計	18	18	17	17	17	17	18	18	16	18	18	17	17.4
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0.3
女性	18	18	17	17	17	17	18	18	16	17	17	16	17.2

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	90	124	150	155	150	150	168	180	186	178	168	186	1,885
要介護 2	180	185	120	124	116	90	93	60	62	93	84	93	1,300
要介護 3	210	217	210	217	248	240	248	240	198	163	159	155	2,505
要介護 4	30	0	0	0	0	0	0	60	62	62	56	47	317
要介護 5	30	31	30	31	31	30	31	0	0	0	0	31	245
合計	540	557	510	527	545	510	540	540	508	496	467	512	6,252
												月平均延べ入居者数	521.0
												年間稼働率	95.2%
												平均介護度	2.32

# グループホーム 徳佐あいおい苑

## 【事業基本方針】

- 1.あ…明るく微笑みのある生活 を大切にする。
- 2.い…生きがいのある生活 を大切にする。
- 3.お…お互いを認め合う生活 を大切にする。
- 4.い…今を共に生きる生活 を大切にする。

## 【目的】

自然の中で季節を感じてもらい、「その人らしく」をモットーに  
毎日を楽しく・生きがいを持って、自分らしく暮らせるように支援する。

## 【入居者の状況報告】

### (1) 入居・退去状況

入居 4名 自宅 4名、(共用型デイサービス利用者よりそのまま入居)

退去 4名 病院 4名

### (2) 入居者の年代 (令和4年3月現在)

80歳未満・・・・・・・・ 1名

80歳以上85歳未満・・・・ 0名

85歳以上90歳未満・・・・ 7名

90歳以上95歳未満・・・・ 7名

95歳以上・・・・ 3名

平均年齢・・・・ 90.8歳

### (3) 介護度別 (令和4年3月現在)

平均介護度 (3月現在)・・・・ 2.5

要介護1 3名

要介護2 8名

要介護3 3名

要介護4 3名

要介護5 1名

### (3) 医療機関への受診・入院

定期往診 澤田医院×15名

定期受診 仁保病院×4名 大草医院×2名

山口日赤×1名 済生会病院×2名 (家族対応2名による)

## 【具体的事業報告】

令和4年度、徳佐あいおい苑はコロナの影響にて思い通りの外出等はできなかったが感染対策を行いながら可能な範囲で徳佐を散歩・散策等を行った。苑内活動もコロナ対策を行いながら四季折々、季節を感じられるような行事を行った。

(活動の状況)

### 1.苑内行事

誕生会、七夕行事、敬老会、  
クリスマス会、新年会、節分祭、ひな祭

### 2.苑外行事（外出等）

近所を散策、ドライブ、

### 3.交流行事

コロナ禍で交流行事なし。

### 4.その他、日常の活動

散歩・ウッドデッキでのお茶や日光浴・おやつや野菜作り  
体操・家事の手伝い・貼り絵・ちぎり絵・しりとり等のゲーム

## 【令和4年度の状況・評価】

今年一年を振り返りコロナ禍にて外出等利用者が満足する支援はできたとはいえない。苑内ではコロナの集団感染（クラスター）にて大変な時期を過ごした。ただそこではお互い様の精神で職員間にて支え合うことができたのは良かったが利用者、ご家族にはご心配をかけた。全体的にグループホームでは年間を通して空床の期間はあったものの安定した稼働に努めてきた。共用型デイサービスもニーズに沿った支援を行い、昨年よりは稼働率も良い。緊急ショートも家族、ケアマネジャーより希望があれば受け入れ対応した。今後も引き続きグループホームでは満床を維持し安定した稼働に努め、共用型デイサービスでは本人、家族の希望に添える支援を継続して行きます。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	4	4	4	5	6	5	6	6	6	6	5	3	5.0
要介護 2	7	6	6	6	6	6	5	5	5	5	7	8	6.0
要介護 3	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	3	3	4.2
要介護 4	1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2.5
要介護 5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
合計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18.0
男性	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	6	7.2
女性	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	12	10.8

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	120	124	120	130	186	150	177	180	186	186	140	93	1,792
要介護 2	210	186	180	186	186	179	186	150	155	155	177	237	2,187
要介護 3	150	155	150	155	124	120	124	120	124	124	84	93	1,523
要介護 4	30	61	60	61	61	90	93	90	93	93	84	93	909
要介護 5	30	31	21	0	0	0	0	0	0	0	0	1	83
合計	540	557	531	532	557	509	590	540	558	558	485	517	6,494
													月平均延べ入居者数 541.2
													年間稼働率 98.8%
													平均介護数 2.29

# グループホーム 徳地あいおい苑

## 【事業基本方針】

- ・個性を尊重し信頼関係の構築に努める。
- ・入居者の皆さんと価値観を共有した毎日を過ごす。
- ・常に敬愛の気持ちを持って、支援を行う。
- ・ご家族や地域の皆様の協力を得ながら、明るく楽しい笑いのある場所づくり努める。

## 【目的】

入居者一人ひとりと向き合い信頼関係を築き必要とされる支援を行うことで、毎日が安心安全に暮らし『ぬくもりの家』を提供する。

## 【入居者の状況報告】

(1) 入居 5名 退居 5名

(2) 入居者の年齢

70～79歳以下×1名 80～89歳以下×8名 90歳以上×8名

(3) 病名

脳血管性認知症	0
アルツハイマー型認知症	13名
前頭葉・側頭葉型認知症	1名
認知症（種類不明）	3名

(4) 障害高齢者日常生活自立度

J1×1名 J2×3名 A1×6名 A2×3名 B2×3名 C2×1名

(5) 認知症高齢者日常生活自立度

Ⅱa×2名 Ⅱb×3名 Ⅲa×4名 Ⅲb×2名 IV×5名 M×1名

(6) 医療機関への受診支援

- ・おおうちクリニック ・仁保病院 ・えま皮膚科 ・あさひ歯科 ・かわもと眼科
- ・山口赤十字総合病院 ・県立総合医療センター

## 【具体的事業報告】

(1) 市内外探訪 車窓から季節の風景を楽しむ（桜、ツツジ、紫陽花など）、初詣

(2) 苑内行事 運動会、ゲーム大会、敬老会、クリスマス会、餅つき、敬老会など

- (3) 交流 散歩などでご近所の方と挨拶、野菜をいただく、
- (4) その他活動 書道、ラジオ体操、風船バレー、唱歌、塗り絵、ちぎり絵、折り紙、切り絵、裁縫、漢字ドリル、計算ドリル、文章書き写し、テーブルゲーム、おやつ作り、家事手伝い（料理下ごしらえ、食器洗い、食器拭き、台拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除）など

### 【令和4年度の状況・評価】

新型コロナウイルス感染症のまん延により、面会については昨年同様リモート面会を行い、直接の面会については状況に応じ制限をかけさせていただいた。年度内に2度のコロナ感染がおり、職員の人員配置が十分とは言えない状況での支援となった月もあった。入居者は感染から入院をされそのまま退居になった方もおられ、稼働率にも影響があった。感染対策は消毒の徹底を行い、できる限りのことは行ってきた。外出のできない状況ではあったが、苑内では日々の積み重ねを大切にして支援を行い、身体を十分に動かしていただけるような企画を行ってきた。

ひまわりユニットは『環境整備』を目標にし、身近なところから常に片付けを意識して苑内を気持ちの良い空間であるように努めた。

こすもすユニットは『初心に戻る』ことを目標にした。常日頃から目標をそれぞれが振り返ることで、利用者一人一人に目を向けることができた。いずれのユニットも職員の意識をいかに持続できるかが大切であり、時間とともに忘れがちになることもあった。今後も職員同士で声を掛け合い、専門職としての在り方を振り返っていきたいと感じる。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	3	3	3	3	4	3	3	3	4	4	5	5	3.6
要介護 2	5	5	5	5	6	4	3	3	3	3	4	4	4.2
要介護 3	5	5	5	5	5	6	6	6	6	5	5	5	5.3
要介護 4	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0.7
要介護 5	3	3	3	3	1	1	1	1	2	3	3	3	2.3
合計	17	17	17	17	17	15	14	14	15	15	17	17	16.0
男性	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3
女性	15	15	15	15	16	14	13	13	14	14	16	16	14.7

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	90	93	90	93	101	90	93	90	109	124	129	155	1,257
要介護 2	150	155	150	132	106	90	93	90	84	93	90	124	1,357
要介護 3	150	155	150	155	155	180	186	180	186	155	130	141	1,923
要介護 4	30	31	30	31	31	30	31	30	0	0	0	0	244
要介護 5	90	93	82	47	31	30	31	14	62	93	84	93	750
合計	510	527	502	458	424	420	434	404	441	465	433	513	5,531
													月平均延べ入居者数 460.9
													年間稼働率 84.2%
													平均介護度 2.61

# 特別養護老人ホーム オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指す。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

## 【目的】

人の為に走れ 優しさと笑顔あふれる暮らし～笑顔でハイ！！

- ・入居される方々に喜んでいただき、笑顔でありがとうと言っていたく。
- ・地域や家族はもちろん色々な方々の係りの中、穏やかに過ごしていただく。

## 【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	入居	退居	(死亡退居)
男性	5名	6名	(1名)
女性	10名	7名	(2名)
合計	15名	13名	(3名)

2. 介護度別入居者数（令和4年3月31日現在） 平均介護度：3.9

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0名	0名	1名	3名	1名	5名
女性	0名	0名	8名	11名	4名	23名
合計	0名	0名	9名	14名	5名	28名

3. 年齢別入居者数（令和4年3月31日現在） 平均年齢：84.5歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	0名	1名	3名	1名	0名	5名
女性	0名	1名	1名	12名	9名	23名
合計	0名	2名	4名	13名	9名	28名

## 【具体的事業報告】

1. 介護部門：河瀬UT) 入居者様一人ひとりが自分らしい生活を送っていただけるように『報』・『連』・『相』の徹底を行いながら関わっていきました。  
雲母UT) 笑顔のたえない「アットホーム」なユニットケアを目指しました。  
寛 UT) 入居者様の表情や変化に気づき、想いを大切にする。業務に取り掛かるときには皆に声をかけ笑顔で挨拶を行いました。
2. 医務部門：状態の変化を早期に察知し予防に努めました。多職種と連携し、利用者個々にあった質の高いケアを提供して「目配り」「気配り」「心配り」を実践しました！
3. 栄養部門：調理スタッフと連携し安心安全な食事作りの提供を行った。  
入居者様に満足頂ける食事の工夫と栄養ケア計画に基づいた健康管理に努める。
4. 生活相談部門：入居、退去の手続きをスムーズに行った。なおその際は、質の向上を図れるよう看護、介護、栄養士等調整を行った。広報誌やお便りやお電話等、きめ細やかな情報発信・交換することで、利用者満足につながるよう体制の継続・改善を図った。

## 【令和4年度の状況・評価】

入居状況に関しての結論としては、満床をほぼ維持することができた。前年度とほぼ変わらない退去者数であったが、常に入居希望者の情報更新を行いつつ、希望者の中で、在宅が厳しい方の話を受けた際には、ショートステイをご案内し、待機者の確保に努めた。

前年度と比較して、病院からの情報提供より、居宅やお問い合わせからの特養希望があるなど、新型コロナウイルスの緩和も影響しているかもしれない。

今後も、入居申し込みの情報を定期的に見直し、待機者および待機者家族様の状況の把握と、ショートステイとの連携を密に図りながら進めてまいりたい。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 3	9	10	13	12	12	12	12	10	10	10	10	10	10.0
要介護 4	12	13	13	12	12	11	13	13	14	13	14	15	14.5
要介護 5	6	5	4	5	5	6	6	6	6	6	6	5	5.5
合計	28	28	30	29	29	29	31	29	30	29	30	30	30.0
男性	7	5	6	5	5	6	7	7	7	7	7	6	6.5
女性	21	23	24	24	24	23	24	22	23	22	23	24	23.5

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
要介護 3	267	286	310	368	372	360	333	300	287	310	280	309	3,782
要介護 4	343	393	378	372	372	330	371	390	423	403	378	430	4,583
要介護 5	177	140	120	146	144	167	186	180	186	186	145	155	1,932
合計	810	819	808	886	888	857	890	870	896	899	803	894	10,320
													月平均延べ利用者数 860.0
													年間稼働率 97.5%
													平均介護度 3.85

# ショートステイ オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえ、可能な限り居宅において、有する能力に応じて、自律した日常生活を営めるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行い、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持、家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行う。
3. 相当期間以上継続する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行う。
4. 地域との結びつきを重視し、県・市町・居宅介護支援事業者・その他居宅サービス事業者、保健・医療サービス及び福祉サービス提供者との連携に努める。

## 【目的】

**人の為に走れ 優しさ笑顔あふれる暮らし～笑顔でハイ！！**

- ・地域や家での寂しさを受け止め、楽しみのある生活を提供する。
- ・家族のストレスを軽減し家族関係をリフレッシュする。

## 【具体的事業報告】

1. 介護部門：一人ひとりのニーズを大切に、笑顔あふれる介護を提供した。
2. 医務部門：早期発見と予防、看取り介護の充実化等、多職種連携し利用者個々に合った質の良いケアの提供を継続的に図った。「目配り」「気配り」「心配り」を忘れずに!!
3. 栄養部門：いつまでも口から美味しく食べて頂けるように一人ひとりに合った安全で美味しい食事の提供を行った。
4. 生活相談部門：ショートステイの稼働率を高めるよう、利用案内の発信および調整等を行った。利用調整だけでなく、利用者家族や居宅等、関連機関に満足してもらえるよう努めた。

## 【令和4年度の状況・評価】

平均稼働率は87.3%となり、もうひとつというところである。小鯖圏域では、在宅看取りを実施している訪問診療や、認知症に特化した仁保病院など、小鯖固有の環境に適応することができ、平均介護度も3以上と、比較的重度の方の利用にもつながっている。

特養待ロング・ショート利用者様も概ね4割程度確保している状況であることは良いことではあるが、ロング・ショートから特養に入居となった際、いかに次のショートステイを埋めることができるかが今後の課題である。

ショート介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	1	0	1	0	2	3	0	1	2	2	0	1	0.5
要介護 1	6	5	7	7	6	7	4	4	8	4	5	6	5.5
要介護 2	4	3	4	5	5	4	6	7	6	5	5	5	5.0
要介護 3	3	3		1	4	3	3	3	4	4	3	2	2.5
要介護 4	6	8	9	9	9	8	10	10	9	6	7	9	8.0
要介護 5	3	3	2	3	1	1	1	1	0	2	3	2	2.5
合計	23	22	23	25	27	26	24	26	29	23	23	25	24.0
男性	8	10	9	12	11	8	9	7	10	9	11	11	11.0
女性	15	12	14	13	16	18	15	19	19	15	12	14	13.0

ショート介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
要支援 2	3	0	3	0	6	16	0	3	14	35	0	3	83
要介護 1	49	24	54	41	52	45	35	27	47	32	50	25	481
要介護 2	25	18	32	42	38	39	54	75	42	33	34	44	476
要介護 3	36	41	0	2	39	39	59	40	51	48	47	40	442
要介護 4	76	99	123	152	120	106	139	127	118	103	120	121	1,404
要介護 5	48	56	45	47	8	5	2	10	0	24	18	33	296
合計	237	238	257	284	263	250	289	282	272	279	269	266	3,186
												月平均延べ利用者数	265.5
												年間稼働率	87.3%
												平均介護度	2.82

# **小規模多機能型居宅介護事業所 才・サーバ aioi**

## **【事業基本方針】**

- ① 指定(介護予防)小規模多機能型居宅介護の提供にあたって、要介護者状態となった場合においても、心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限り住み慣れたその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、通いを中心として、利用者の容態や希望に応じて、随時訪問や宿泊を組み合わせて、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練等を行う。更には利用者の心身機能の維持回復を図り、生活機能の維持又は向上を目指す。
- ② 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供を行う。
- ③ 利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止又は要介護状態になることの予防に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
- ④ 利用者の所在する市町村、居宅介護支援事業者、地域包括支援センター、他の地域密着型サービス事業者又は居宅サービス事業者、主治医、保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者、地域住民等との連携に努める。

## **【目的】**

**人の為に走れ ～自分らしい生活を続けるためのサポートを全力で行います！～**

在宅生活を送る要介護（要支援）の高齢者に 24 時間 365 日の安心を感じられるサービスを提供することで、自宅での生活を可能な限り続けることができるように支援する。

## **【具体的事業報告】**

- ・定員を 25 名に増員。
- ・利用者の紹介先が拡大し、一時期待機者が生じるほど問い合わせが増えた。
- ・年度中はほぼすべての月で黒字を維持し、昨年度の成績を上回った。

## **【令和 4 年度の状況・評価】**

- ・短期利用の受け入れを開始し、同時に居宅介護支援事業所との連携が増えたことで、利用者の紹介にもよい影響があった。
- ・他サービスからの移行だけではなく、ケアマネの判断ではじめから小多機を選択肢に考えるケースが多かった。サービスの認知度が向上している。
- ・様々なニーズへの対応が求められる一方で、それに応えられるだけのサービス内容や提供量が不足している。地域密着型サービスとしての特色、地域性をアピールできていない。

小規模多機能型居宅介護事業所 オ・サ・ハ・aioi

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小計	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
要介護 1	11	11	12	14	14	13	12	11	9	9	10	9	135
要介護 2	2	2	2	2	2	2	4	4	5	4	4	5	38
要介護 3	2	2	2	3	3	4	3	3	3	3	4	3	35
要介護 4	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3	2	2	24
要介護 5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小計	17	17	18	21	22	22	23	22	21	20	21	20	244
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	19	18	19	22	23	23	24	23	22	21	22	21	257

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	4	4	30	2	0	0	0	0	0	0	0	0	40
要支援 2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
小計	8	4	30	2	0	0	0	0	0	0	0	0	44
要介護 1	160	179	225	258	218	235	186	159	126	98	105	124	2,073
要介護 2	30	31	30	26	27	27	70	70	73	67	64	62	577
要介護 3	61	63	61	58	61	84	59	55	51	53	44	28	678
要介護 4	29	28	28	31	29	22	30	46	42	44	37	66	432
要介護 5	22	12	5	23	22	11	23	21	18	20	20	22	219
小計	302	313	349	396	357	379	368	351	310	282	270	302	3,979
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	310	317	379	398	357	379	368	351	310	282	270	302	4,023
										月平均延べ利用者数			335.3
										年間稼働率			73.5%
										平均介護度			1.86

宿泊利用

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	7	7	7	9	10	13	12	11	10	8	9	9	112.0
利用回数	145	143	131	186	191	222	230	191	181	163	157	153	2,093.0
										月平均延べ利用者数			174.4
										年間稼働率			57.3%

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	0	1	3	2	0	1	0	0	1	1	0	0.9
体験利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1

# サービス付き高齢者住宅 オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

高齢者にとって住みやすい住設備と、安否確認や生活相談などのサービスを組み合わせること  
で、本人、家族共に安心して生活できる環境を提供するように支援を実施する。

## 【目的】

人の為に走れ ～多様な生活の在り方を受け入れられる施設を目指して～

高齢者向け住宅として、一人ひとりの生活の在り方を尊重し、自分らしい暮らしを展開して  
いける施設づくりを行う。

## 【入居者の状況報告】

### 1. 入・退居状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	入居	退居	(死亡退居)
男性	1名	0名	(0名)
女性	3名	2名	(1名)
合計	4名	2名	(1名)

### 2. 介護度別入居者数（令和5年3月31日現在） 平均介護度（令和5年3月31日現在）：2.0

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	1名	0名	0名	0名	0名	1名
女性	2名	1名	1名	1名	0名	5名
合計	3名	1名	1名	1名	0名	6名

### 3. 年齢別入居者数（令和5年3月31日現在） 平均年齢：89歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	0名	0名	0名	1名	2名	3名
女性	0名	0名	1名	3名	2名	6名
合計	0名	0名	1名	4名	4名	9名

### 【具体的事業報告】

- ・満室になった月がある。その他の期間も空き室は1～2室で推移。
- ・特養の入居の順番が来るまでサ高住で生活するというケースを受け入れた。

### 【令和4年度の状況・評価】

- ・要介護度が高くても、より自由な生活スタイルを求めて入居するケースを受け入れた。家族も含めて要望が多かったが、施設としてのサービスを考え直すよい経験となった。
- ・特養入居を前提としたケースも受け入れ、同一建物内の連携の在り方の一つとして選択肢を増やすことができた。
- ・入居者からの意見や要望が多くあるが、十分応えられていない。コロナの感染も経験して外出活動を控えたこともあり、建物内で過ごす時間が長いことでの閉塞感が広がっている。

サ高住介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要支援 2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1.0
要介護 1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3.5
要介護 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1.0
要介護 4	1	1	1	2	3	3	3	2	2	2	1	1	1.0
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	9	8	8	9	10	10	10	9	9	9	10	9	9.5
男性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3.0
女性	7	6	6	7	8	8	8	7	7	7	7	6	6.5

サ高住介護度別月間延べ入居

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
要支援 2	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
要介護 1	103	124	120	124	124	120	124	120	124	124	107	93	1,407
要介護 2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 4	30	31	30	49	90	90	71	60	62	62	28	31	634
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	253	248	240	266	307	300	288	270	279	279	219	217	3,166
													月平均延べ利用者数 263.8
													年間稼働率 86.7%
													平均介護度 1.4

# 共同生活援助 ひとつの会ホーム

## 【事業基本方針】

- ・地域の中に障害者も当たり前の「暮らしの場」を持つ
- ・地域の中で役割を持ち、地域の一住民として生活できるよう支援する
- ・障害特性に応じた支援を行い、それぞれの利用者にとっての自立を目指す
- ・地域住民と共に暮らすことにより、障害者の暮らしを地域に向けて発信していく機会とする

## 【目的】

障害者が、当たり前で地域で暮らすことを実現できるよう、利用者、地域住民双方に働きかけを行っていく。障害者も含め、様々な人が暮らしやすい街を作ることができるよう、障害者の暮らしを通して社会に対し発信、提案を行う。

## 【入居者の状況報告】

- ・5月に1名、7月に1名入居し、7名の体制となった。
- ・家庭の支援がなく、金銭管理や諸手続き等 GH で支援することが多い利用者が増えている。

## 【具体的事業報告】

- ・地域移行した利用者のフォローを自立生活援助と連携して行っていたが、12月末で支援内容を居宅介護に移行し、自立生活援助はサービス終了とした。
- ・より幅広い層の職員が働けるよう、また利用者の支援の時間を確保できるよう、食事提供の一部を地域の食堂に依頼した。
- ・元々5名定員で指定を受けていたが、2棟目の整備をし、7名定員とし、定員を増員した。

## 【令和4年度の状況・評価】

- ・自立生活援助と連携し地域移行したケースがサービスを居宅介護に移行し、サービス終了したことで、本来の自立生活援助のサイクルが実現できたと思われる。  
市内で初めての移行期に自立生活援助を利用し、生活が安定して終了したケースであり、今後も同じような地域移行のモデルケースとなれると良い。
- ・地域の食堂に食事提供を一部依頼したことで、調理の苦手な職員でも世話人を務めることができ、人材の確保につながった。また、地域の食堂に普段から GH に関わってもらうことで、地域に見守ってもらえる人が増え、障害者理解の機会にもつながっている。
- ・2棟目の GH を整備し、定員を7名としたことで、収支は安定してきた。その分必要な常勤換算が増えており、勤務のしかたに工夫が必要となっている。
- ・新型コロナ陽性の利用者の支援を経験し、GH の感染対策、また陽性者発生時の支援のありかたについて再考する機会となった。

支援区分別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1													0
区分2													0
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分4													0
区分5													0
区分6													0
その他	4	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	68
合計	5	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	80

支援区分別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1													0
区分2													0
区分3	26	24	26	25	25	24	25	25	27	15	23	26	291
区分4													0
区分5													0
区分6													0
その他	147	149	146	139	183	174	180	201	180	178	165	184	2,026
合計	173	173	172	164	208	198	205	226	207	193	188	210	2,317
													月平均延べ利用者数 193.1
													年間稼働率 90.7%

# 生活介護事業所 トイロ

## 【事業基本方針】

- ・地域の中で役割を持ちながら、充実した生活ができるよう支援する。
- ・様々な経験をする機会を提供し、豊かな人生となるよう支援する。
- ・ライフステージに応じた、利用者の生活全体を見据えた適切な支援をすることによって将来にわたり利用者を支える。
- ・地域に向けて障害者の生活を発信していくことで新たな価値観をつくり、子供から障害者、高齢者まで誰もが良さを発揮できる地域づくりに貢献する。

## 【目的】

- ・誰もが地域の中で役割を持ちながら、自立した生活が営めるよう、日中にやりがいをもって活動できる場を提供し、地域での生活を支える。
- ・障害の有無に関わらず、誰もが互いを認め合いながら、それぞれの良さを発揮できる地域づくりに貢献する。
- ・事業所が地域にあることで、地域の活性化に貢献する。

## 【利用者の状況報告】

自閉症の利用者の割合が増え、また支援区分が上がる利用者が多く、全体的に必要な支援量が増えた。

## 【具体的事業報告】

- ・自閉症に対する支援力の強化を行った。職員の研修の機会を設け、現場で研修内容を共有し、支援に役立てた。
- ・支援を多く必要とする利用者に対する支援が行き届きやすく、安全な支援をするため、職員の休憩時間や場所等のハード面、業務内容等見直した。
- ・有機栽培での野菜の栽培を1年通して行った。山口市有機農業推進協議会の認証シールを貼った野菜を販売することで、トイロの野菜が有機栽培であるということが購入してもらう人に浸透した。
- ・管内幼稚園での野菜と自主製品の販売を開始した。管内幼稚園での食育、また利用者が必ず販売活動に加わることによって障害者と園児の触れ合いの機会となっている。直売所等仲介せず直接販売できるため、販売額アップにも貢献している。

- ・ボランティアとの畑作業での協働はコロナ禍でも可能な範囲で行った。職員だけでは手が割けない部分もボランティアの方に行ってもらったり、また利用者に対しての技術指導も行ってもらったりと利用者の職員以外の人と接する機会となった。地域の人を呼んでの芋ほり会もボランティアと共同で行った。祝日であったが開所日とし、利用者も初めて多数の参加が叶った。
- ・4月、8月、9月、12月と年間4回、コロナ陽性者が出たことによる休業があった。その度対応に追われ、また収入減を余儀なくされた。

## 【令和4年度の状況・評価】

- ・自閉症に対する支援力の強化は最優先の課題であり、今年度から外部研修の受講も開始した。研修内容を現場で共有することによって、支援力のアップにつながった。
- ・職員の休憩や業務の在り方を整理することによって、より重度の利用者に対しての支援が行き届きやすくなった。今後の利用者増にも備えることができる形となった。またその時々利用者の状態像に応じて、業務の在り方を見直すことを習慣としていきたい。
- ・今年度より本格的な有機栽培の野菜としてトイロの野菜を販売することができた。認証シールを貼ることによって、地域の人に対しても、トイロの野菜が安全で美味しく、持続可能な環境保全型農業をしているということの周知につながった。有機栽培で美味しいといった購入者の声を聞くこともできた。今後、有機栽培の栽培スキルの向上も目指していきたい。
- ・近所の管内幼稚園での販売は幼稚園側の食育の機会、またトイロの顔が見える直接販売の機会の確保、また幼児期から障害者に触れ合う機会を作り、将来の障害者理解に繋げるといいうくつもの課題に対してアプローチすることができた。地域と協働することによって、事業所単独では難しい多方面のアプローチが可能となり、様々な効果を互いに生むことができる。今年度は野菜の収穫が少ない時期からの試験的な販売であったが、令和5年度は本格的に販売活動に力を入れていきたい。
- ・ボランティアとの協働も継続していきたい。ボランティアの方々の高齢化が徐々に進んできており以前ほどの活動が難しい面も見えた1年であったが、高齢者の経験や人脈等を生かしていただき、トイロの力になっていただける場を引き続き作っていきたい。
- ・新型コロナの影響を身近に感じた1年であった。今後の社会の動向や現場として利用者の安全、安心を守ること、様々なことを考えながら最善な方法を模索していきたい。

## 支援区分別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1													0
区分2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1			15
区分4	5	5	5	4	4	5	5	5	6	6	6	6	62
区分5	8	8	8	8	8	7	7	8	8	8	8	8	94
区分6	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	93
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	23	23	23	22	22	22	22	23	24	24	24	24	276

## 支援区分別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1													0
区分2	18	19	19	18	18	18	18	18	19	18	17	19	219
区分3	10	13	18	14	11	5	8	8	7	5	0	0	99
区分4	32	33	32	31	22	31	40	40	40	29	39	42	411
区分5	44	51	54	53	47	43	47	52	57	34	32	36	550
区分6	44	52	56	51	48	46	60	54	56	52	57	67	643
実費利用													0
合計	148	168	179	167	146	143	173	172	179	138	145	164	1,922
													月平均延べ利用者数 160.2
													年間稼働率 24.6%

## 利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.3
体験利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

## **あいおい苑 居宅介護支援事業所**

### **【事業基本方針】**

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と、周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援する。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行う。

### **【目的】**

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行う。利用者の中にある潜在的なニーズを把握し、専門職として代替できるように支援する。

### **【具体的事業報告】**

利用者に必要な新しい情報を提供し、様々なサービス事業所から自己選択を促し、CM、ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を図った。また、地域包括支援センター、民生委員等、利用者の地域で関わる人との連携を大切にし、利用者を地域の目の中で支えていける体制づくりを常に心掛けた。

新規利用者の積極的に獲得し、集中減算に該当しないようコンプライアンスを配慮しながら、同法人の紹介率の維持、向上を図った。

自己の知識、技術を高められるよう事業所内外の研修に参加し、復命を行い各担当が情報を共有した。

特定事業所としての機能を認識し、適正な運営を行えるよう情報提供を行った。

居宅連絡会議 毎週（金曜日）9：00～

防府市介護支援専門員協会総会

主任介護支援専門員研修

介護認定調査員研修

権利擁護・成年後見研修

防府市医療介護連携推進協議会や防府緩和医療懇話会

医療や障害等の介護保険以外のサービス研修

幸せます会議（自立支援型地域ケア会議）

地域支援事業にかかる研修

### **【令和4年度の状況・評価】**

- ・介護給付のケアマネジメントにおいては、逝去・入院・入所等で終了となる利用者が多く新規ケースは通年を通して断ることなく獲得を行い、各包括からの依頼もあり、協働で動くことで各関係機関と信頼関係の強化ができた。また他居宅から引き継ぐケースや小規模多機能へつなぐケースもありご利用者やご家族の意向を尊重し住み慣れた地域で自立した生活ができるように利用者の立場にたった支援を行った。

あいおい苑 居宅介護支援事業所

介護度別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	4	5	5	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4.3
要支援 2	14	11	10	10	10	10	11	10	11	10	12	11	10.8
総合事業	6	6	6	6	7	7	4	4	3	3	4	4	5.0
小計	24	22	21	20	21	21	19	18	19	17	20	19	20.1
要介護 1	60	59	61	62	62	60	62	62	58	57	57	58	59.8
要介護 2	16	17	18	19	21	20	19	20	17	18	18	18	18.4
要介護 3	11	11	14	14	14	14	11	14	14	13	12	11	12.8
要介護 4	10	14	12	12	13	12	12	12	13	13	14	13	12.5
要介護 5	7	6	5	7	5	7	4	4	4	4	4	4	5.1
小計	104	107	110	114	115	113	108	112	106	105	105	104	108.6
合計	128	129	131	134	136	134	127	130	125	122	125	123	128.7
												年間利用者数	1,544

訪問調査委託

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
防府市	5	5	10	5	3	5	5	4	1	4	4	13	5.3
下松市									1				1.0

## 北地域包括支援センター

### 【事業基本方針】

高齢者が住み慣れた地域で、継続して尊厳あるその人らしい生活を送れるように支援することを目的とし、地域の保健・医療・福祉サービスや各種社会資源等の地域包括ネットワークを継続して構築する。

アセスメントを通して高齢者自身が自分の望む暮らしを具体化し目標と出来る様、インフォーマルサービスの調整を含め、生活全体を包括的・継続的に支援する。

### 【目的】

地域包括ケアシステムの推進に向けて各関係機関との連携や住民活動等インフォーマル資源を活用したネットワークの構築を努める。

### 【具体的事業報告】

#### ① 総合相談対応事業

住民に身近な総合相談窓口として信頼を得られるよう、親切丁寧な対応に努めた。

多くの課題を抱えている利用者やご家族、支援が困難な利用者に対しては、行政機関や地区の民生委員・福祉員・ゆうあい訪問員等と連携を密にとり対応した。

地域包括支援センターに関して、地域住民への講座や民生委員協議会への参加を通して普及啓発活動を行った。

#### ② 介護予防ケアマネジメント事業

介護予防に対する取り組みを高齢者が自主的・継続的に行えるように意欲の向上を図るとともに、必要な知識の普及啓発に努めた。

また、予防に関して積極的に取り組み事業対象者の把握や、地域のサロン、住民の活動についての情報提供を行い、要支援・要介護の重度化の抑制・自立支援の視点に立った介護予防サービス計画の作成に努めた。

短期集中予防型サービスについては利用者の参加・同意を得て、通所施設やリハビリ専門職、栄養士、薬剤師等と協力をしながら、「地域で今まで通りの生活を継続する」を目標に支援してきた。短期集中予防型通所サービスを卒業した方々について介護予防手帳を交付し、1年間のフォローアップを継続している。

介護サービスに頼らず元の生活に戻ること、高齢者の力を信じてポジティブフィードバックを行い、元の生活に戻れてよかったと実感できる体制が作れるよう引き続き支援を行う。

#### ③ 権利擁護事業

虐待対応や権利擁護についての相談に関しては、各機関と協力体制をとり利用者が安心して生活できるように急性期対応後も継続して相談支援を行う。

被虐待者だけの支援だけでなく養護者支援に力を入れ虐待の連鎖が起こらない様努めた。また、必要な方には成年後見制度につなげ利用者の権利を守る対応を行った。市や地域関係団体と連携を深め、虐待の早期発見や見守り・相談支援に努めた。また、成年後見制度や虐待防止に関する研修に参加し、知識の向上に努めた。

#### ④ 包括的・継続的ケアマネジメント事業

サービス調整が難しい対象者に対し、ケアマネージャーやサービス提供事業者と随時同行訪問を行うとともに、担当者会議に参加し、関係機関との連絡調整を行った。また、地域を支える方々と連携し、高齢者の生活を総合的に支える体制作りに努めた。個別地域ケア会議の開催により、ケースごとに支援方針の作成と確認、モニタリングを行った。

#### ⑤ 地域ケア会議の開催

他問題を抱える高齢者世帯、サービスが上手く導入できない対象者世帯に対して「個別地域ケア会議」を開催し、各機関と役割分担・協働を行い支援を継続している。高齢者の自立を促し、自分らしい生活を取り戻してもらうため自立支援型地域ケア会議に月1回参加し、事業所として毎回1事例の提供を継続して行っている。

#### ⑥ 生活支援コーディネーター

専任の生活支援コーディネーターを配置し、社会資源の開発や地域の元気アップ体操の場づくりを行った。住民主体の活動を支援することで、地域の介護予防となり、地域の方々から困りごとの情報も入ってくるようになった。今後も住民ニーズに基づいた地域資源の開発に取り組む。

#### ⑦ 自立支援コーディネーター

自立支援コーディネーターを配置し、自立支援型地域ケア会議の運営、短期集中予防型サービスにかかるリハビリ専門職との同行訪問、事業所内のミニケア会議を随時開催している。個別事例を通してその人の自立支援とは何かを考え、生活支援コーディネーターや担当ケアマネと情報を共有しながら、「その人らしい暮らし」に向けて支援している。

### 【令和4年度の状況・評価】

市の委託業務を受け、地域づくり、関係機関とのネットワーク構築に努めた。支援の必要な高齢者を適切なサービスに繋げること、介護予防にも力を入れ、地域包括としての認知度も向上したと考える。

認知症高齢者の相談に関して、認知症疾患センター等と連携を取り地域で自分らしく暮らせるよう本人・家族支援、近隣の方へ対応方法の周知、サービス事業者との連携を行ってきた。

短期集中予防型サービス事業も軌道に乗り、より一層利用者の自立支援とは何かを包括内で共有し、実際の支援の視点に役立てている。

包括内での職種別主催の勉強会、ミニケア会議を通し、職員間の知識や利用者支援の方向性

の統一を行ってきた。自立支援コーディネーターを中心として、利用者の自立支援に向けてさらに深化させたいと考える。

生活支援コーディネーターとして、生活支援コーディネーターを中心に、地域の介護予防啓発に努め、住民主体の活動の支援を継続している。

今後も地域のネットワーク作りの強化を行い、実態把握や地域包括支援センターの周知を行うことで、状況に応じた切れ目のない相談支援体制を構築することが大切であると考えている。

## 令和4年度実績表

## ・総合相談件数

(単位 件)

相談方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	74	65	91	81	67	72	90	71	81	90	77	77	936
電話	11	27	24	27	23	18	23	16	31	21	22	20	263
来所	12	13	15	8	13	12	14	10	9	7	15	6	134
計	97	105	130	116	103	102	127	97	121	118	114	103	1333

## ・総合相談内容実績内訳(複数記入)

(単位 件)

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
認知症(疑い)	11	17	22	11	19	5	8	8	6	6	10	9	132
経済的な問題	5	0	4	3	3	4	4	6	5	7	1	7	49
障がい(精神・知的・身体)	2	9	4	4	9	2	6	2	4	1	2	1	46
ケアの内容に関わる事項	0	1	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	8
介護保険関係	28	30	36	43	24	31	39	32	27	37	36	29	392
介護保険代行申請	9	18	14	13	15	17	18	19	20	23	21	8	195
ケアマネージャ紹介	5	5	4	1	4	3	3	2	6	4	4	4	45
介護保険外サービス	5	2	3	2	4	8	8	6	13	3	5	11	70
成年後見制度の活用	0	0	0	0	1	1	3	0	0	6	0	1	12
虐待(疑い含む)	1	0	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	7
困難事例	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	2	0	6
消費者被害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・施設に関すること	7	6	11	5	6	10	6	7	10	6	5	4	83
家族関係に関すること	0	0	2	0	0	0	1	0	2	0	1	0	6
高齢者の身元問い合わせ	0	2	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	6
アルコール問題にかかわること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
その他	17	14	27	12	13	18	29	16	25	26	20	10	227
計	90	105	130	101	100	101	127	98	121	119	108	86	1286

## ・介護予防支援訪問件数

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	229	190	229	180	135	230	198	224	206	166	201	237	2425

## ・要支援1・2と認定された方のケアプラン件数(給付管理の対象となった件数)

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	123	124	122	123	115	117	126	118	120	120	121	127	1456
要支援2	157	161	148	155	154	155	157	157	158	149	151	147	1849
事業対象者	84	76	76	76	75	77	76	70	74	68	67	68	887
計	364	361	346	354	344	349	359	345	352	337	339	342	4192
うち委託件数	113	111	102	107	105	102	112	103	101	93	96	98	1243

## ・介護予防支援・ケアマネジメント内訳

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護予防給付	200	204	193	193	190	188	193	192	191	193	193	195	2325
総合事業	164	157	153	161	154	161	166	153	161	144	146	147	1867

## ・民生委員協議会

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
佐波		1					1						2
右田		1					1		1				3
小野		1					1						2

## ・運営推進会議

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
スローライフ	1		1		1		1		1		1		6
スマイル創		1				1		1			1		4
スワン											1		1
サンコープデイ												1	1
初梅		1		1				1				1	4

地域出張講座:4回

# 地域サポートセンター オ・サーバ

## 【事業基本方針】

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援する。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行う。行政・地域包括支援センター・民生委員・各病院地域連携室との連携を図り地域の高齢者と家族の円滑な支援を行い地域に貢献する。

## 【目的】

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行う。利用者の中にある潜在的なニーズ・残存能力を把握し、専門職として代弁できるように支援する。コロナ感染により看取り時病院・施設での家族・親族の面会ができない為、在宅での看取り希望が増えているような緊急・困難状況を勘案し在宅での本人支援の充実と家族の介護負担・精神的負担軽減を図る。

## 【具体的事業報告】

1. 利用者に必要な新しい情報を提供し、様々なサービス事業所から自己選択を促し、CM、ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を図った。また、地域包括支援センター、民生委員等、利用者の地域で関わる人との連携を大切にし、利用者を地域の目の中で支えていける体制づくりを常に心掛けた。
2. 新規利用者の積極的に獲得すると共に困難事例などの扱いによる職員の負担を考慮しながら、集中減算に該当しないよう依頼事業所の選定をコンプライアンスに配慮しながら行い、同法人の紹介率の維持、向上を優先しながらも利用者・ご家族の意向確認しながら法人貢献を図った。
3. 自己の知識、技術を高められるよう事業所内外の研修に参加し、復命を行い各担当が情報を共有した。
4. 特定事業所としての機能を認識し、適正な運営を行えるよう他支援事業所と情報提供を行った。
5. 居宅連絡会議 毎週（火曜日）8：30～
6. 更新研修・主任介護支援専門員研修介護認定調査員研修
7. 医療や障害等の介護保険以外のサービス研修
8. 地域支援事業にかかる研修等

## 【令和4年度の状況・評価】

1. 介護給付のケアマネジメントにおいては、時期的・季節的に入院・入所等が重なり終了となる方が多く、一時的に利用者急減がかなりあったが困難事例含め積極的に新規獲得活動を行い収益・利益確保を行った。
2. 新規ケースについては職員の活動状況・負担を考えながら通年を通して出来るだけ断ることなく獲得を行った。基幹包括・各地域包括・病院の地域連携室からの依頼もあり、困難

事例に積極的に取り組み解決することにより関係機関との信頼関係の強化ができた。

- 3.各担当が、コンプライアンスを遵守し、適切に業務を行うことで利用者又はそのご家族と信頼関係を形成でき、そこから知人や親類へ紹介していただくケースも増えた。
- 4, 最近特に女性ケアマネが対応できないセクハラ・DV 等への対応必要な男性利用者への支援依頼が多くなってきている。出来るだけ対応しながら今後も利用者拡大につなげたいと考えている。その為にも男性ケアマネの配置が必要になると思われる

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	54	57	56	58	53	47	47	48	48	46	47		561
要介護 2	24	25	25	27	24	25	24	25	25	25	25		274
要介護 3	18	18	17	16	17	16	23	17	17	18	19		196
要介護 4	9	9	11	15	14	12	14	12	12	13	14		135
要介護 5	6	6	4	3	3	4	5	4	3	4	6		48
小計	111	115	113	119	111	104	113	106	105	106	111	0	1,214
合計	111	115	113	119	111	104	113	106	105	106	111	0	1,214
												月平均利用者数	100.3

訪問調査委託

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
山口市													0
広島市													0